



岐 測 協

No.83
[2022春号]

一般社団法人
岐阜県測量設計業協会



災害特集

「災害に対する協会の取り組み」

「岐阜県内の気象災害 ～平成30年7月豪雨の例に～」

令和3年8月豪雨災害を振り返って

挨拶	一般社団法人岐阜県測量設計業協会会長	浅野芳宏	1
	岐阜県知事	古田 肇	2
	岐阜県議会議長	佐藤 武彦	3
特集 ぎふを守る			
災害特集	「災害に対する協会の取り組み」	災害対策委員長 村橋 壘	4
	「岐阜県内の気象災害 ～平成30年7月豪雨の例に～」		
		株式会社テイコク	6
	「令和3年8月豪雨災害を振り返って」	東濃圏域現地管理者 矢頭 善次	8
技術のコーナー	「県・市町村建設職員研修会に研修講師として参加して10年」		
		測量技術委員会	10
	「BIM/CIMの動向」		
		測量技術委員会・建コン技術委員会・新技術ワーキンググループ	14
トピックス	「地図教室と測量体験学習」の開催	総務広報委員会	18
	岐測協フォトコンテスト2021	総務広報委員会	26
学校紹介	建設工学科の取組	大垣工業高等学校、可児工業高等学校	28
新入社員紹介			32
活躍する女性技術者・若手技術者			38
会員のページ			43
野生イノシシへの経口ワクチン 野外散布の実施について		災害対策委員会	48
委員会活動だより			49
事業報告			55
編集後記			64
協賛広告			65

岐測協フォト
コンテスト
2021 受賞者

表紙の写真
写真提供

最優秀賞 (株)三進
最優秀賞 (株)三進
優秀賞 大同コンサルタンツ(株)
優秀賞 (株)メイホーエンジニアリング
優秀賞 (株)三栄コンサルタント

林崎美穂
山田雄大
榎原寛之
中村章成
小林繁博

会報誌83号 刊行にあたり



一般社団法人 岐阜県測量設計業協会会長

浅野 芳宏

会員の皆様、関係機関並びに関係団体の皆様方には、日頃より当協会の事業活動に格別のご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、一昨年より続く新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、我が国でも令和3年末までに170万人以上の感染者が発生する深刻な状況に陥り、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用され、社会経済活動の制限が長期化するなど、その影響は計り知れません。

秋以降は、ワクチン接種などの様々な対策の効果もあり感染状況は沈静化していましたが、新たな感染力の強い変異株による第6波の感染拡大が始まっており、今後も長期的な対応が避けられない状況です。

更に、気候変動の影響による近年の豪雨災害の激甚化・頻発化により、令和3年においても全国各地で河川の氾濫、橋や道路などの災害が多発し、岐阜県でも5月の大雨による川島大橋（県道）の橋脚洗堀による上下部工の災害や、8月豪雨に伴う東濃・飛騨地域を中心に大きな豪雨災害が発生しています。この自然災害や社会インフラの老朽化対策は猶予のない喫緊の課題です。

こうしたウィズコロナの状況下においても社会活動を活発化させるためには、感染防止対策や医療体制の整備とともに、社会資本の適切な維持管理や老朽化対策など、積極的な財政出動による公共事業の推進が不可欠です。

昨年4月から始まった新たな「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化計画」の着実な推進により、大規模災害にも耐えうる強靭な国土づくりが着実に進められることを期待するところです。

こういった中での当協会における令和3年度の事業活動は、昨年度に引き続き進め方の変更を余儀なくされ、ソフトボール大会や経営者セミナーの中止、各種会議の書面開催、WEBの活用、ソーシャルディスタンスを考慮した会議等の開催、時期の変更など、工夫しながら可能な限り実施して参りました。

また、災害発生時の応援要請にも会員の皆様が一丸となって災害応援業務にご尽力いただいたことに厚く御礼申し上げます。今後も岐阜県建設業広域BCM計画に基づき、災害発生時の復旧・復興活動に努め協会の役割を果たして参りたいと思います。

一方で、当業界は若手技術者の減少、技術者の高齢化に伴う担い手不足が進行しています。災害発生時にはいち早く現場に駆け付け被害状況の把握など、激甚化する自然災害に対して適切な対応を行う担い手確保が重要なことだと思います。

今後も働き方改革を推進し、ワーク・ライフバランスの実現に向けた労働環境を整え、業界の魅力向上に努めていく必要があります。岐阜県、建設業界、大学等で設立した「岐阜県人材育成・確保連携協議会」に参画し、引き続き人材確保の取組に努めて参りたいと思います。

最後に、会員の皆様には現在の社会情勢を踏まえ、それに対応できる措置を施し、今後も行政機関のパートナーとしての志を新たに、県民の安全・安心の構築について、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

更に、国、県、市町村をはじめ、関係団体の皆様には、今後とも尚一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

知事挨拶

岐阜県知事
古田 肇



一般社団法人岐阜県測量設計業協会の皆様には、平素より県行政の推進に格別のご理解、ご協力を賜るとともに、災害応援協定に基づく災害調査対応など、地域住民の安全・安心のために献身的にご対応いただき、心より感謝申し上げます。

昨年8月の大雨では、17市町村において土砂災害警戒情報を発表し、県内の32観測地点の3分の2以上で8月の降水量の過去最大値を更新するなど、東濃や飛騨南部を中心に記録的な大雨となり、同地域を中心に被害が発生しました。

そのような中、貴協会には発災直後に災害現場に駆けつけていただき、早期の被災状況の把握や復旧計画の策定、測量や設計業務の実施など多方面にわたり活動していただきました。こうしたスピード感のある対応に、あらためて皆様の存在を大変心強く感じるとともに、引き続き、地域を守る担い手である皆様方と一体となって防災対策の強化に努める必要があると再認識したところです。

今後も引き続き皆様と連携を深めるとともに、県土強靱化に向けた取組みを着実に推進し、安全・安心な岐阜県づくりを進めてまいります。

さて、建設業界では、就労者の高齢化により今後大量の離職が見込まれ、若年層の新規入職者も減少していることから、担い手の育成・確保や生産性の向上が喫緊の課題となっております。

このため、県では、労働環境の整備や人材育成などの取組みが優秀な企業を「ぎふ建設人材育成リーダー企業」として認定し、企業の人材育成意識

の向上を支援しております。また、「建設ICT人材育成センター」を立ち上げ、生産性向上に繋がるICT技術の実践的な研修や技術力向上セミナーなどの実施により、建設人材の育成に努めています。貴協会にも構成員となっただいている「ぎふ建設人材育成・確保連携協議会」では、建設関連企業と学生の交流サロンなど、産学官が連携した取組みを行っているところです。

さらに、将来の建設業の担い手となる小中学生等へのPR冊子の配布や、出前授業、PR動画の制作などによる魅力発信にも取り組んでおり、令和3年度からは、新たにUIターンや転職希望者の建設業界への受入れ促進や、県内の工業高校等を対象とした土木関係の資格取得支援を開始しました。

また、ICTモデル工事の拡大実施や建設現場へのICTコーディネーターの派遣、ドローンをはじめとする新技術を活用した橋りょうの点検の試行などにより建設分野のDXを推進し、生産性と安全性の向上を目指しており、今後も建設業界の未来を見据えた取組みを積極的に実施してまいります。

この他、地域経済の発展の基礎となり、県民の命と暮らしを守る社会資本の整備にも注力してまいりますので、貴協会におかれましても、引き続きご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、貴協会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

挨拶



岐阜県議会議長
佐藤 武彦

一般社団法人岐阜県測量設計業協会の皆様におかれましては、平素より測量設計業界の健全な発展及び地位の向上を図るとともに、県勢発展に格別のご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大により、建設投資の減少が懸念されるなど、建設・建築業界は大変厳しい状況におかれていると認識しております。

こうした中でも、日常生活における移動手段として自動車に強く依存する本県において、道路や橋など老朽化が進む社会インフラを適切に維持管理していくことは極めて重要であります。

そのため、本県では産官学が連携し、社会資本の新規整備や維持管理・補修に必要な技術を持つ社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）の養成に取り組んでおり、貴協会におかれましては、ME養成ユニット運営協議会の一員として、MEの養成にご尽力をいただいております。

加えて、会員向け技術講習会の開催に加え、県・市町村職員や工業高校生徒向け研修への講師派遣など、技術力の向上や測量・設計に関する普及啓発に取り組まれており、引き続き、次の時代を担う技術者の育成・確保についてご尽力賜りますようお願い申し上げます。

また、貴協会と県は、災害時の被害状況調査について応援協定を締結しており、令和2年7月豪雨災害では、国道41号の道路崩壊をはじめ、県内各地で甚大な被害が発生した際には、迅速な被害状況調査にご協力いただきました。

このように、近年頻発する風水害等の自然災害や、いつ起こるとも知れない南海トラフ地震等の大規模地震が発生した場合、被害状況を迅速かつ正確に把

握することは復旧活動を進めるうえで不可欠であり、貴協会の皆様方の応援は誠に心強い限りであります。

同時に、貴協会は令和2年4月に岐阜県建設業広域BCM（事業継続マネジメント）に認定されております。今後とも、災害に対する事業継続力を高めるとともに、本県の地域防災力向上のため、迅速かつ確実に災害に対応できる広域的な体制強化を、皆様方とともに進めてまいります。

新型コロナウイルスとの闘いは2年以上が経過しました。アフターコロナを見据え、持続的な発展を遂げるためには、ソーシャルディスタンスの確保など、新しい生活様式に対応した職場環境の整備に加え、デジタル化やITインフラの整備による業務の効率化を通じ、一人ひとりの生産性を高めていかなければなりません。

また、人口減少が進み、あらゆる分野での人材不足が叫ばれる中、「女性が活躍できる職場環境」や「長く働きたいと思える職場環境」を創り上げていくことも大切です。

こうした取組みによって、建設・建築分野がより一層魅力的な職業として社会から評価されることをご期待申し上げます。

岐阜県議会といたしましては、皆様方の率直なお意見を県政に反映させるべく全力で取り組むとともに、引き続き、社会資本の整備促進に鋭意取り組んでまいります。

結びに、岐阜県測量設計業協会の更なるご発展並びに会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

災害特集



災害特集

災害に対する協会の取り組み

災害対策委員長 村橋 壘

はじめに

我々協会員は、社会資本整備の一翼を担う者として、災害時等においても確実に本業を維持・継続し、また災害応援協定等にも迅速に対応しなければならないことはご周知のとおりであります。

協会の活動においても災害発生時に実施すべき重要業務は、「災害時の技術支援体制の確保及び隣県の測協との災害時支援体制」として明記されております。

岐阜県においては、平成30年夏の西日本豪雨災害に続き、昨年度には再び飛騨・中濃地区において大規模災害が発生しましたが、一連の「災害応援協力に関する協定」「岐阜県広域 BCM」に基づき、協会主導の円滑な初動対応は果たせたものと考えけると同時に、その後の連携におけるスピード感などを鑑みた時、協会員への日頃からの訓練教育の継続や技術力向上が必要不可欠であるとあらためて思料した次第であります。

渦中、今年度については、8月に飛騨・東濃地区において豪雨災害が発生しましたが、激甚災害の指定には至らず、比較的冷静に災害対応に臨むことができたものと考えます。

その一方で、飛騨地方では群発地震も発生する中、南海トラフ地震と首都直下型地震が同時に発生する『スーパー南海地震』について専門家が言及するなど、自然災害の脅威は絶えることなく続いています。

こうした中で、今後に向けて重要なことは、我々協会員全社がいかに平時から準備して、いかに協会 BCM に沿った活動が災害発生時に行えるかであると考えます。

では、以下に今年度の災害応援出動や平時における活動の内容について、良かった点や課題を盛り込みながら述べてみたいと思います。

1. 災害協定について

【令和3年度の災害応援出動について】

協定に基づき、令和3年度も「8月：飛騨・東濃地区豪雨災害」に応援協力致しました。

昨年度の知見を活かし、発注者との協議のうえ、以下の対策を実施し、より円滑な対応ができました。

- ① 緊急性を要したため初動調査を当該自治体が行った。
- ② 協会が主導し担当業者の振分けを行った。
- ③ 協会が主導し見積りの統一を図った。

岐阜県事務所別 災害発注業務数 一覧表

令和3年9月末日									
各事務所 (土木事務所)	2020		2021		各事務所 (農林事務所)	2020		2021	
	指名	随契	指名	随契		指名	随契	指名	随契
岐阜	河川 1 (随契)		河川 1		岐阜				
大垣	河川 1		河川 1		西濃				
揖斐	河川 1		河川 1		揖斐				
可茂		河川 1	道路 1 河川 1	河川 4	可茂				
美濃	道路 1 河川 1	道路 1	道路 1 河川 1	河川 1	中濃				
郡上	道路 1 河川 3	河川 2	河川 4	河川 1	郡上	治山 1			
下呂	道路 1 河川 6	道路 1 河川 9	河川 1	道路 4 河川 4	下呂	治山 2			
高山	河川 4	道路 1 河川 7		道路 4 河川 4	飛騨	農政 1			
古川	河川 3	道路 1 河川 8	道路 1 河川 3						
多治見	道路 1 河川 1		道路 1 河川 1	道路 1 河川 1	東濃				
恵那	道路 1 河川 1		道路 1 河川 1	道路 4 河川 5	恵那				

岐測協調べ

【6月の川島大橋洗堀災害について 岐阜土木事務所・岐阜国道事務所】

各務原市川島笠田町地内の川島大橋において、出水の影響により河床が洗堀され橋梁が傾斜したことで、地域のライフライン（川島大橋の通行禁止）が寸断されました。

本件業務は、傾斜した橋梁の上部工（上弦材）・下部工（橋脚）の水平・鉛直変位を測定し監視するものであり、定点観測業務として、モニタリング調査（有人観測＜平常時＞＜洪水時＞）、三次元自動変位計測システム、定点写真撮影等を実施しました。

最も重視したことは、稀にみる災害対応であったことから、その守秘義務を果たすことに加え、業務の遅延を防止する等、適格かつ円滑に業務を実施するための応援体制の構築でした。



【今年度の平時における活動について】

災害応援協定に関する協定に基づき、各所轄土木事務所説明会を実施しました。

6月17日から7月1日にかけて、岐阜県全域全11土木事務所への行脚により意見交換会を行ったもので、各土木事務所共通の内容については、以下の2点でした。

- ① 村橋災害対策委員長の挨拶と力石事務局長の内容説明、連絡体制の説明
- ② 協定書の第3条2項及び協定業務実施要領の第3条2項の説明を行い理解を求めること

《協会から土木事務所に対する主な意見》

- ・協会あて休日・夜間等要請の場合には土木事務所側の窓口（担当）一本化と返信が容易な携帯電話の使用を願いたい。
- ・協会から対応可能な業者を推薦する。基本的には地域に精通し、即応可能な当該地区の業者を推薦し、次に、規模・技術的難易度に応じた業者を推薦するシステムとし、あらゆる災害に対して万全を期す体制を構築している。
- ・公式な初動調査の歩掛の確立がされており、災害発生時にはこの歩掛を運用して頂き、一刻も早く契約をしていただき、未契約な状態を極力をなくすようにしていただきたい。
- ・土木事務所から依頼された災害業務は、基本的には全て有償の随意契約である。

《土木事務所から協会に対する主な意見》

- ・今後も協定システムを運用する。過去と比べ円滑に遂行が出来るようになった。
- ・推薦業者の理由を明確にして欲しい。できればそのまま、随意契約理由としたい。
- ・建設コンサルタンツ協会中部支部との災害協定の違いを明確にして欲しい。

等の意見がそれぞれ示され、双方にとって有意義な時間を設けることができました。

2. 協会 BCM について

協会では令和2年4月に岐阜県建設業広域 BCM の認定を受け、災害時等の事業継続力を高め本県の防災力の向上に努めているところであります。

かかる中で、会員の皆様の BCP に対する理解を深めるとともに、課題や改善点を明らかにするため、10月28日に以下の「令和3年度 BCP 策定支援セミナー（WEB 開催）」を実施しました。

- ① BCP マネジメントセンター代表安藤一男様による WEB 講義「近年の気象災害と注意すべき情報」
- ② 豪雨災害時を想定した模擬訓練（ロールプレイング）演習「豪雨災害対応の演習」

当日は、35社37名の会員様にご参加いただき、あらためて危機管理意識の啓蒙を図ることができたものと思料致します。



おわりに

以上の通り、今年度においても災害応援出動については協会主導の円滑な初動対応を果たせたものと考えます。

また、皆様のご協力により、災害発生への危機感を常に忘れることなく、行政との意見交換など、平時における諸活動も果たせたものと思料します。

しかし、冒頭で述べた通り、自然災害の脅威は絶えることなく続いています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大による感染防止対策とも相俟って、従業員の働き方についても刻々と変化への対応が求められています。

そういった意味では協会活動についても新しいスタイルを求められる転換期にあるのかもしれませんが。

ただ、我々測量業に携わる者の「災害から地域の生活を守る使命」は不変です。

我々協会員は、社会資本整備の一翼を担う者として、引き続き「災害時応援体制に関する内容」を全者が理解の上で実践することで、今後とも活動を継続してまいります。

以上

岐阜県内の気象災害

～平成30年7月豪雨の例に～

株式会社テイコク 稲生 秋利
宮川 野分

1. 岐阜県の災害事例

今回、気象と災害の関係について、岐阜県内で大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」（平成30年6月末～7月上旬）について紹介します。

県内でも数多くの災害が発生し、多くの被害を受けました。関市の津保川では河川の氾濫により、上之保地区や下之保地区を中心に多くの家屋で床上・床下浸水の被害が発生しました。また、岐阜県は県内の84%が山地であるため、斜面崩壊等の土砂災害も数多く発生しました。

テイコクでは、下呂市萩原町上呂地区で発生した斜面崩壊現場にて災害対応を行いました。この箇所では、JR高山本線内に土砂が流入して線路を60m塞ぎ、鉄道が不通となる被害となりました。

発災後に被災状況の迅速な把握が求められたため、テイコク所有のUAV搭載型のレーザスキャナ（写真1）にて計測を実施しました。写真2は、レーザスキャナで取得したオリジナルの点群データです。土砂の流出の様子が視覚的に把握しやすく、情報共有に役立ちました。また、点群データ及びUAVから撮影した写真を解析することで崩壊の規模、崩土・倒木状況等の把握ができ、復旧設計や災害査定に必要な等高線図・横断図・土量算出等が作成可能となり、迅速な災害対応に大きく寄与することができました。



写真1 UAV搭載型レーザスキャナ



写真2 オリジナル点群データ（下呂市萩原）

2. 当時の気象状況

土砂災害が発生した下呂市萩原のアメダスの観測データ（図2）をみると、6月27日の未明から30日にかけて4日間で約300mmの雨が降りました。29日午後には57mm/hの非常に激しい雨が降り、前述した土砂災害が発生した要因となりました。その後、7月4日から8日にかけて強い雨が降り続け、特に7日には岐阜県内初の大雨特別警報が発令されました。最終的には、郡上市柘洞では降り始めからの総雨量が観測史上1位となる1204mmを観測するなど、各地で記録的な大雨となりました。

天気図（図1）を見ると、日本列島上空に停滞した梅雨前線に、日本の南海上の熱帯低気圧から暖かく湿った空気が供給されていることが読み取れます。前線が活発となり、雨雲が発達しやすくなったことが大雨となった要因の一つとして挙げられます。このような気圧配置時には、大雨による大きな災害が過去にもたびたび発生しているため、災害に対しての嚴重警戒が必要です。

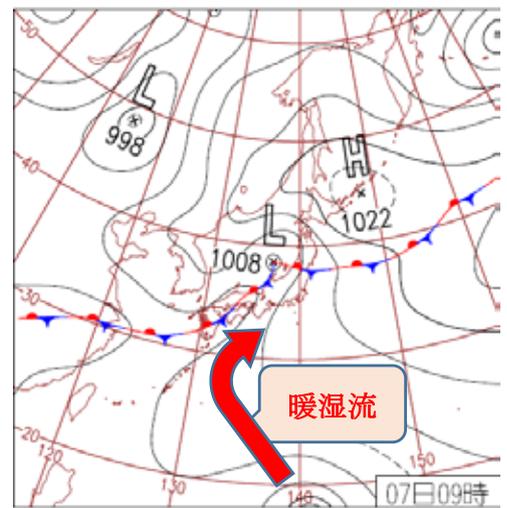


図1 7/7 天気図

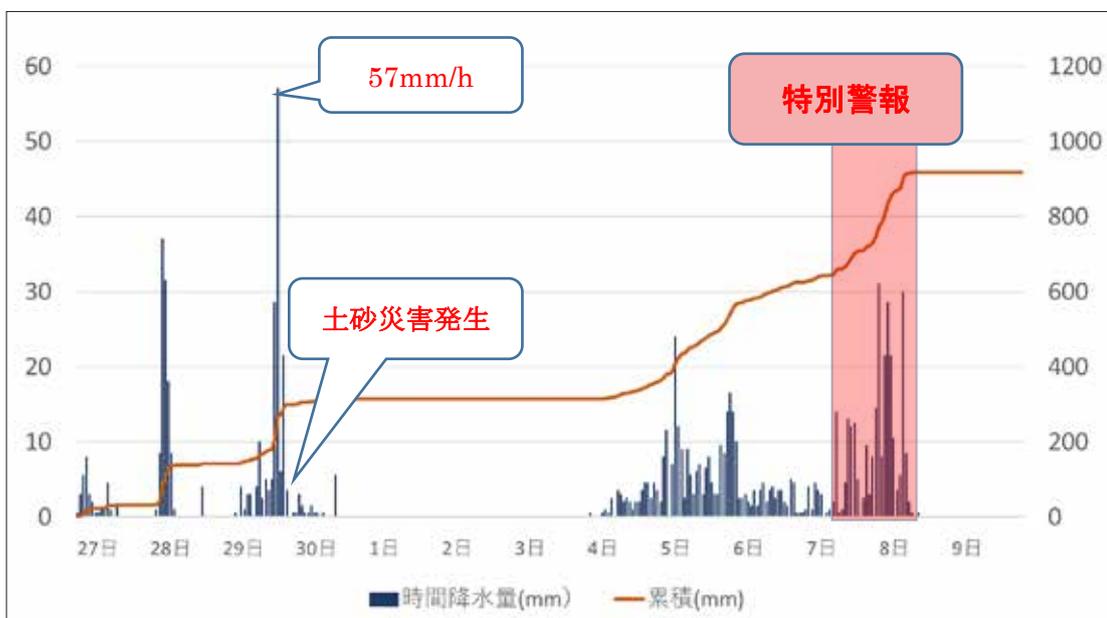


図2 萩原の降水量推移

3. おわりに

岐阜県内だけではなく全国各地で災害が毎年発生しております。土砂災害等の被害を防ぐことは難しいですが、人的被害を減らすことは可能です。そのためには各個人が災害に対しての意識を高めることが重要であると思います。

一気象予報士の思いとして、日々の気象情報等に目を向けて欲しいと思っています。「気象」に少しでも触れることで、災害への意識を持ち、減災へとつながる流れが生まれることに期待しております。

皆さんに「気象」を身近に感じて欲しいという思いから、業務の傍らで、お天気に関わる話題についてのコラムをテイコクのホームページ内で定期的に更新していますので、興味のある方はぜひ一度ご覧になってください。

(参考)

テイコク HP コラム (http://www.teikoku-eng.co.jp/column/inou_list.html)

気象庁 HP (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) (過去の天気図、アメダスデータ)



令和3年8月豪雨災害を振り返って

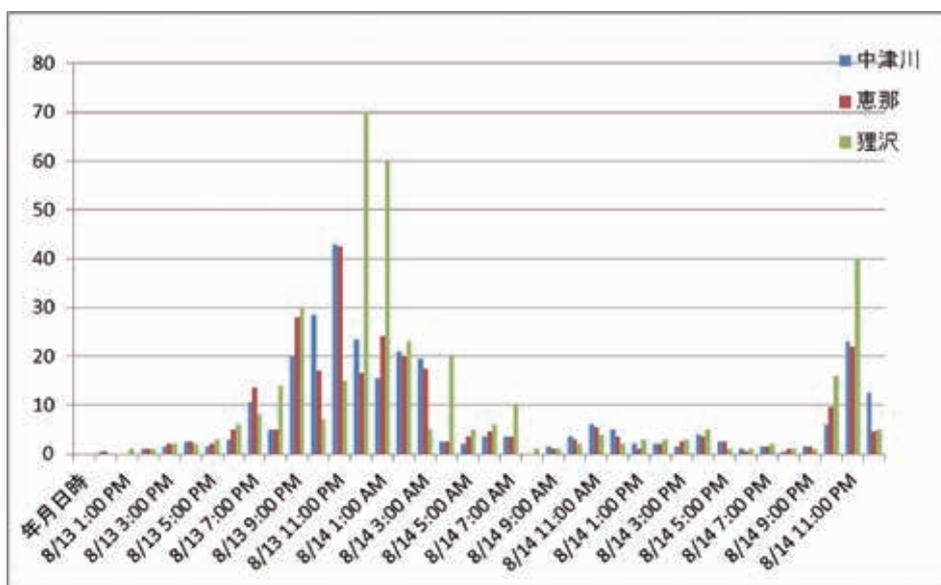
東濃圏域 現地管理者

有限会社大矢コンサルタント 矢頭 善次

当協会（岐阜県測量設計協会）は岐阜県県土整備部と「災害時応援協力に関する協定」を結んでおり、私はこの協定に基づく東濃圏域「現場管理者」の役を仰せつかっている。8月の豪雨で東濃地方は甚大な土木災害被害が発生し、その対応としてこの協定に基づく地元構成員（協会）との調整を実施したのでその内容を紹介する。

8月の豪雨と災害

8月13日から14日にかけて発生した記録的な豪雨は、13日から14日正午にかけ総雨量で250mm（中津川219、恵那221、狸沢296）、最大時雨量で50～70mmであった。この豪雨によって、東濃地域では中津川、恵那の両市を中心に河岸の決壊、河川の氾濫、土砂崩れなどが各地で発生し、恵那土木管内だけでも140カ所を超える施設災害が起き、多治見土木、地元三市の災害を含めると東濃地方のみで300カ所を超える災害となった。



■グラフ：8月13日から14日にかけての洪水時の時刻降雨（気象庁恵那、中津川、狸沢）

応援体制

幸いに、今回の災害は破堤による洪水氾濫や土石流氾濫はなく、災害発生期間中の初動調査の出動要請は無かった。災害発生後の災害箇所現状調査・測量・設計業務が応援要請であった。災害発生直後に直ぐに恵那・多治見の両土木事務所より応援要請を受けて調整に入ったが、最初に地元構成員の13社で300件を超える災害箇所の対応は困難と判断し、多治見土木事務所管内の災害箇所について

は十数件であり、1社にお願いすることで事務所の了解を得て、残り140カ所の恵那土木管内を構成員13社で分担することとした。

災害発生直後は、個々の被災場所の被災内容や規模の詳細が判らないこと、一方業務受け入れ側の構成員の体制状況も十分に把握し切れていない上での調整であった。

被災箇所の災害復旧工事の調査・測量設計業務は道路災害、河川砂防部門登録業者 7社、道路部門登録業者 10社、測量業登録業者 13社と分類した、次いで個々の被災場所の被災内容の詳細は不明な段階なので、箇所別ではなくエリア別に区域分けして各構成員の担当エリアを決めた。そのうえで個別場所の修復内容が担当構成員の能力を変える場合は、構成員間で調整することを発注者側に求め了承を得た。以上が調整の主要内容であった。

かくして発注者側の理解、受注者側の構成員の了解を得て、私の「現場管理者」としての役目は終わった。全ての災害箇所の災害査定は12月には終わり、査定率も90%を超えたと聞いている。良かったとホトトしている。同時に構成員の中には多少の不満を抱えた社もあるかも知れないが、これから具体の工事が始まり、我々の協力によって郷土が復興される事で「良し」と願いたい。

今回のような複数同時発生の災害時でも災害応援協定に基づく組織体制が確立されていたおかげで、災害の発生からその対応までスムーズに調整が行われたこと、また構成員（協会員）相互の理解によって共同チームができ相互支援が出来たこと、発注者の理解も頂けたことなどで、全ての業務が工期内に納められ無事災害査定が終わったと考えている。

しかし、同時に今回の調整業務を通じて下記に示す課題も浮き彫りとなった、今後の参考にまとめておくことにする。

【課題】

- ・ 地元業者は10社であるのに、県土整備部の災害の他にも地元中津川市、恵那市、瑞浪市等市町村の災害と重なる場合が多く、災害の箇所件数によっては業務の遂行に限界があること
- ・ 地元の業者の規模は、社員数が数人から十数人程度であり、災害に従事できる人数に限界があること
- ・ 東濃圏域以外にも災害は発生しており、営業所を置く協会員も当該地区に多く参画出来ないこと
- ・ 災害業務においては、災害応援協定に基づき随意契約となるため、測量と設計の分離がしにくく、また業務遂行に建設コンサルタントの道路部門、河川砂防部門の登録が必要とされるので、特定の会社に業務が集中すること
- ・ 地方の圏域内業者には建設コンサルタントに登録している業者が少ないこと

災害時は人、物、情報等利用できる資源に制約がある。その状況下で速やかに支援体制を整え行動するためにはそれぞれの企業における建設コンサルタント登録への努力、災害に備える担い手・体制の確保等の平時の心備えが重要であると感じた。



県・市町村建設職員研修会に 研修講師として参加して10年



測量技術委員会 副委員長

今泉 博幸

はじめに

平成23年8月に（公財）岐阜県建設研究センター様より、「特別研修 測量」についての研修会開催のため（一社）岐阜県測量設計業協会に研修会への講師派遣依頼を受け、現場の最前線に立つ測量技術者の集まる測量技術委員会から講師を派遣することになりました。

第1回目は同年10月24日に開催され、早いものでそれから10年が経ち、以来一度も中止になることなく今年度（令和3年度）の開催で11回目を迎えるまでになりました。

それまでは不定期で、稀に圏域毎などスポットで研修会等を開催していた経緯はありましたが、（公財）岐阜県建設研究センター様より講師派遣依頼を受けてからは毎年「測量」の研修会が開催され、研修資料の作成及び座学、模擬観測の実習講師をさせていただいております。

会報誌82号（2021年春号）への寄稿

前号（No.82 2021春号）では、研修会開催10年目として、この10年の間に研修会に参加していただいた建設技術職員の方々に対し、毎年必ず座学で講義している内容の一部を紹介させていただきました。

82号への掲載内容としては、以下のとおりです。

- ・測量法と公共測量、及び作業規程の準則
基本測量と公共測量など
- ・測量の基準 日本測地系から世界測地系へ
（測地成果2000、測地成果2011）
- ・地球上の位置とジオイド（ジオイド・モデル）
日本のジオイド2011（Ver.2）
- ・測量の歴史 基準点測量（三角測量）、水準測量
明治時代から現在まで「映画 剣岳点の記」
- ・セミ・ダイナミック補正の導入
（地殻変動による歪みの影響）
- ・公共測量における基準点と水準点の役割

82号で掲載させていただいた内容について、現役の測量技術者であれば、知っておいて欲しい内容ではありますが、日々の業務に追われ、なかなか勉強する時間も取れず、今更ながら人には聞けない、ついには忘れてしまっている内容でもあるかと思い、書いてはみませんが、副題として「今更聞けない測量技術の基礎」と心の中で唱えながら応援する思いで掲載しました。

「特別研修 測量」への講師派遣依頼

「県・市町村建設職員研修」の開催にあたり、最初に岐阜県建設研究センターより測量の特別研修の依頼を受けた際、同研究センターからの要望は「測量の基礎知識

と題して測量技術の習得を目的としている」とのことでした。研修の依頼内容としては以下のとおりですが、確認のため当時の研修担当者の方に幾つか尋ねました。

研修カリキュラム（案）

座学（午前）

- ・測量法について
- ・測量用語
- ・測量業務委託の項目と内容
- ・実習の説明

測量実習（午後）

- ・測量機器の説明（レベル・光波測距儀）
- ・実践測量（基準高）
- ・記帳、計算

「参加される県・市町村の建設職員の方々は、経験年数何年目くらいの方を想定してみえるのですか？」

「測量の技術レベルは、どの程度が良いのでしょうか」などの確認事項に対し、同研究センターの担当の方からは、「あまり難し過ぎず、また簡単過ぎず、参加対象者は技師、主事、及び希望者であり、比較的若く経験年数も浅い職員の方も参加されると思うので、その辺りを考慮した内容でお願いしたい」と言われた記憶があります。

研修資料の作成にあたり、盛り込む内容など技術レベルを含め全く白紙の状態から作り始めました。とは言えどの位の技術レベルで研修資料を作成すべきか、実習についてもどの程度の模擬観測（疑似体験）を希望してみえるのか、どのような方法が良いのか？と、とても悩みながらカリキュラムを作り始めたことを覚えています。

研修資料「測量業務の基礎知識」の作成

研修会に参加される県・市町村の職員の方々は、建設担当職員として公共事業（業務）を発注（計画）するもしくは直接業務を担当される側の立場の方々でもあり、その際の測量についての参考図書として長く使ってもらえるようにと考え、更に積算上での用語や積算ポイントなどの内容を盛り込むなど諸々工夫して作成してみました。

発注者側である建設職員の方々には、測量技術、測量業務への理解をより深めていただきたいとの願いを込め、研修資料を作り始めた記憶があります。

更に、せっかく測量技術についての話をさせていただく機会をいただきましたので、少しでも発注者側、受注者側、双方のレベルの向上に寄与することが出来れば幸いです。同資料を作成させていただきました。

この10年の間には TLS（地上レーザスキャナ）など新しい技術、機器が登場、国土地理院から同技術の測量マニュアルができ、その後、それら新技術の普及に伴い

「公共測量 - 作業規程の準則」が一部改正されてきました。

同研修会での座学に於いても、準則の一部改正に関する内容のほか、最新の情報や測量技術の紹介なども毎回盛り込みながら作成し、令和3年度の研修会では以下の項目（内容）の座学をさせていただきました。

今号でも「技術コーナー」への寄稿ですので、ここからは、前号82号では掲載できなかった情報、新たなマニュアルの内容や作業規程の一部改正に関する事項について、研修資料の一部をご紹介しますと思います。

研修（座学）内容

1. 測量法と公共測量、及び作業規程の準則
作業規程の準則の一部改正について
2. 測量の基準
測量作業（GNSS 他、測量用語）について
3. 測量業務の委託項目と内容
4. 参考資料
(UAV・TLS・リモートセンシング・座標変換)

測量業務の基礎知識（研修資料から一部抜粋）

令和元年度の主な改正内容

1. 国土地理院が定めた作業マニュアルで規定した測量の取入れ
 - ① GNSS 測量による標高の測量（水準測量）を新たに追加。
(一部の離島を除く全国で標高を取得可能)
・近傍に水準点が無くても、GNSS 測量機により 3 級水準点を設置可能

国土地理院 HP より

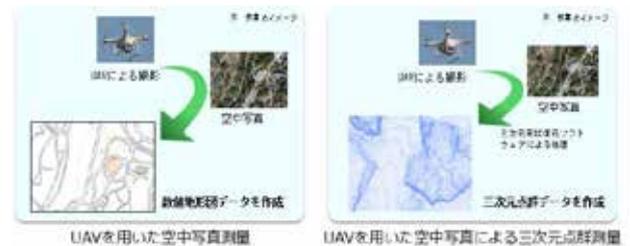
マニュアル(案)	測量手法	測量手法の名称	準則への規定箇所
GNSS測量による標高の測量マニュアル	GNSS測量による標高の測量	GNSS測量機による水準測量	第2編基準点測量第4章



- ② UAV（無人航空機）を用いた公共測量
： UAV 写真測量・UAV 写真点群測量
UAV で撮影した空中写真を用いた **数値地形図データ**（地図情報レベル250、500）作成、**三次元点群データ**作成の基準（精度確保）や作業手順等を定める。

国土地理院 HP より

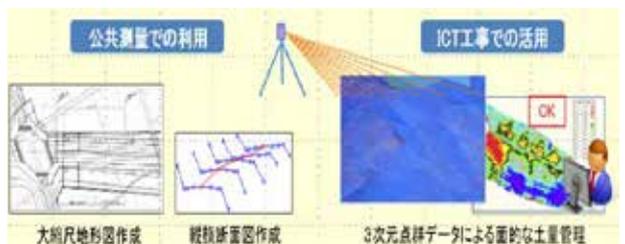
マニュアル(案)	測量手法	測量手法の名称	準則への規定箇所
UAVを用いた公共測量マニュアル(案)	UAVによる空中写真を用いた数値地形図作成	UAV写真測量	第3編地形測量及び写真測量第5章
	UAVによる空中写真を用いた三次元点群作成	UAV写真点群測量	第4編三次元点群測量第3章



- ③ 地上レーザスキャナを用いた公共測量
： 地上レーザ測量・地上レーザ点群測量
地上レーザスキャナを用いた写真測量による **数値地形図データ**（地図情報レベル250、500）作成 **三次元点群データ**作成の精度確保のための基準や作業手順等を定める。

国土地理院 HP より

マニュアル(案)	測量手法	測量手法の名称	準則への規定箇所
地上レーザスキャナを用いた公共測量マニュアル(案)	地上レーザスキャナを用いた地形測量	地上レーザ測量	第3編地形測量及び写真測量第3章
	地上レーザスキャナを用いた三次元点群データ作成	地上レーザ点群測量	第4編三次元点群測量第2章



2. 車載写真レーザ測量に使用する「IMU（慣性計測装置）」の性能基準の明確化
 - ① 車載写真レーザ測量（MMS）
第3編第4章 車載写真レーザ測量、第179条（車載写真レーザ測量システム）

IMU の性能

センサ部の性能、ローリング（0.05度）、ピッチング（0.05度）、ヘディング（0.15度）の3軸の傾

き及び加速度が計測可能で、データ取得間隔（0.01秒）を含む性能を有すること

3. 地図記号の追加

① 「標準様式」に自然災害伝承碑の追加

過去に起きた自然災害に関する情報を伝える恒久的な石碑、モニュメント等をいう。



② 「多言語標記による図式」JIS ピクトグラム

「i」有人又は無人の観光案内所に適用

「？」有人の観光案内所に適用



4. 測量くぎの追加

日本産業規格（JIS）に、測量くぎの品質、形状、寸法等が登録されたことを受け、応用測量で使用できる標杭として追加された。



国土地理院 HP より

電子基準点のみを既知点とした 3級基準点測量マニュアル（案）

概要

このマニュアルは、現在、公共測量において1級及び2級基準点測量で利用可能となっている電子基準点のみを既知点とする測量方法を、3級基準点測量にも適用させる作業方法を示したものです。

同マニュアル（案）令和3年6月 国土地理院

マニュアルの特徴

- ・新点間距離：200mを標準とし、既知点間の距離の制限は適用しない。
- ・既知点数：2点以上（作業地近傍の電子基準点を使用する）

- ・測量方法や観測に使用する機器、観測時間や使用する衛星数及び計算方法は「作業規程の準則」第2章で規程する「電子基準点のみを既知点とした基準点測量」と同様



地図投影法：回転楕円体面上の経緯度を平面上の座標値に変換

地図投影法は、図形的性質により

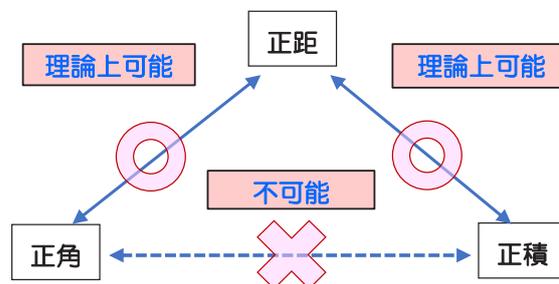
正距図法、正角図法、正積図法に分類

※地球上の任意の地点間の距離を正しく表すことは、理論上不可能

正距・正角・正積図法の関係

平面に描かれた地図において、正距図法と正角図法、又は正距図法と正積図法の性質を同時に満足させることは理論上可能であるが、正角図法と正積図法の性質を同時に満足させることは理論上不可能である。

（日本測量協会 受験テキスト、地図編集より）



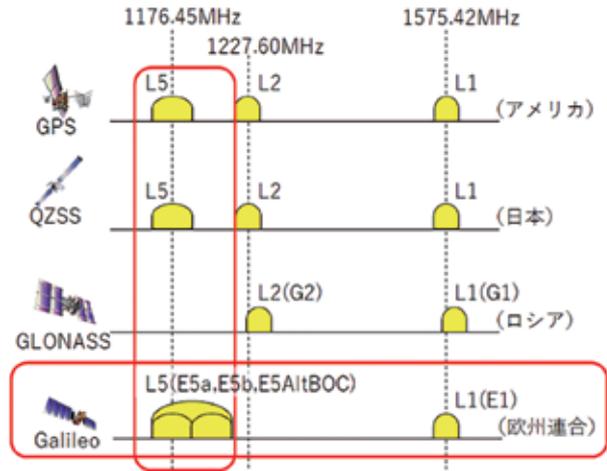
平面直角座標系とUTM(ユニバーサル横メルカトル)図法

	平面直角座標系	UTM 図法
投影法	ガウス・クリューゲル図法(正角図法)	
適用範囲	日本全国	北緯84°以南 ~ 南緯80°以北の地域
座標系の分け方	日本全国を19の座標系に分けている	経度180°から東回りに経度幅6°のゾーンに分け、1~60の座標帯番号を付ける
図郭の形	長方形	不等辺四角形、中央子午線に対し左右対称、赤道に対し上下対称
地図での投影法に採用	地方公共団体等が作成する都市計画基本図など大縮尺地図	国土地理院の1/25,000地形図や1/20万地勢図

マルチ GNSS 測量マニュアル (案)
 —近代化 GPS、Galileo 等の活用—
 平成27年 7月 令和 2年 6月更新

国土地理院では、マルチ GNSS の信号を単独若しくは複数で行う測量作業マニュアルを制定しました。これにより、Galileo、新たな周波数帯 (L5) を使用した 1 ~ 4 級基準点測量が実施可能となります。

- ・ L5 の使用：3 周波解析 → 10km 以上の基線について観測時間の短縮 (120分以上 → 90分以上)
- ・ 基線解析 (統合解析)：GPS 3 機、Galileo 1 機でも使用可



国土地理院 HP より

マルチ GNSS 測量

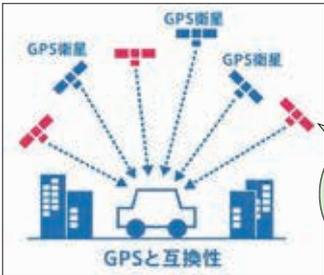
GPS (米国)、GLONASS (ロシア)、Galileo (欧州連合)、QZSS (日本の天頂衛星システム) といったマルチ GNSS の信号 (L1、L2、+ L5 信号) を単独若しくは複数組み合わせる用いる測量

QZSS：準天頂衛星システム (日本)

静止軌道と同じ周期：軌道傾斜角45°
 日本付近で高仰角



準天頂衛星：みちびき



準天頂衛星 (QZSS)
 GPS 補完・GPS 補強

2022年春号 会報誌83号へ寄せて

測量技術委員として、僭越ながら前号の82号に引き続き、今号の83号へも寄稿させていただきました。

寄稿テーマとしては、技術コーナーの「測量研修について」と、「測量技術について」でした。

我々測量技術委員会が担当し講師等を派遣させていただいている測量研修については主に三つあります。一つ目は、岐阜県県土整備部用地課主催の「用地事務担当者研修」、二つ目は、岐阜県農政部主催の「農業土木職員技術研修会」があり、三つ目は前号に続き今号でも紹介させていただいた (公財) 岐阜県建設研究センター主催の「県・市町村建設職員研修」です。

「用地事務担当者研修」では、(1) 用地測量の概要と題し資料調査と用地測量の講義と、(2) 設計積算項目については、設計数量算定基準に基づく、用地調査等に係る調査等の区域から取得等の区域や積算項目についての説明と、(3) 演習として、模擬現場の設計数量内訳書の作成をしていただき、その解答 (解説) をさせていただきます。

「農業土木職員技術研修会」では、実際の現場での路線測量に伴う中心線測量や縦横断測量の体験と、その測量成果を基にした設計までの研修をしています。

はじめにも書きましたが、「県・市町村建設職員研修」は平成23年度の1回目から令和3年度で11回の開催となりましたので、会報誌では活動報告を兼ね寄稿させていただきます次第です。

また、県・市町村建設職員研修会では午前の座学の他、午後から「測量実習」として、観測 (測定) 及び計算整理等の模擬体験をしていただいています。

普段、なかなか扱う機会が少ない測量機器、トータルステーション (TS) やレベル (水準儀) を使用し、水平角、鉛直角の観測や距離の測定、路線の縦断面 (標高) を求める縦断測量 (観測)、更に、RTK 法による GNSS 測量 (単点法) の模擬観測も見いただき、研修会参加された皆さんにはとても良い経験になるようで、評判も上々だと聞いています。

この研修会が、建設職員の皆様だけではなく、私共の協会各社の測量技術者のレベル向上に、少しでも寄与することが出来れば幸いに存じます。

ありがとうございました。

国土交通省では、「ICTの全面的な活用（ICT土工）」等の施策を建設現場に導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上を図り、もって魅力ある建設現場を目指す取組であるi-Constructionを進めています。

国土交通省の「i-Construction 推進に向けたロードマップ」では、令和2年（2020年）度から調査・測量・設計分野において、「地形測量の実装化」、「原則すべての工事で3Dデータの適用」を推進しています。

「3Dデータの適用」でポイントとなるのは、CIM（Construction Information Modeling, Management）の導入です。

国土交通省では、令和5年（2023年）度の小規模を除く全ての公共工事におけるBIM/CIM原則適用に向けて、段階的に適用拡大することとし、令和3年（2021年）度は大規模構造物の詳細設計で原則適用を始めました。

しかしながら、施工分野ではICT土工のように運用が進み、国土交通省や岐阜県発注工事において経験と実績が積まれているのに比べ、我々調査・測量・設計分野ではまだこれからといった状況です。

施工分野に比べ調査・測量・設計分野では、まだリクワイアメント（発注者から受注者への要求事項）が確定しておらず、どの段階からどのように3次元モデルを活用するか、業界団体等とも協議している段階です。

このため、令和3年度時点では、特に、調査・測量・設計分野から施工分野への3Dデータの受け渡しがうまくいっていないのが現状です。（設計と施工でデータのフォーマットが異なる。ICT施工に必要なデータとなっていない等）

このような状況を踏まえ、測量技術委員会、建コン技術委員会、新技術ワーキンググループでは、合同でBIM/CIMに関する勉強会を令和3年7月に開催し、コマツカスタマサポート(株)中部カンパニースマートコンストラクション推進部佐藤泰寿様を講師にお招きし、BIM/CIMの現状と課題について整理を行いました。

勉強会では、中部地方整備局とのBIM/CIM意見交換会に岐測協代表として出席している大日コンサルタント(株)の飯田潤士氏にも意見交換会の様子を説明していただきましたので、あわせて報告します。

1. 中部地方整備局との意見交換を通して見えてきたもの

意見交換会の概要

- ・3次元の取り組みをやっている中で現場のICT施工はかなり効果があがるというのは見えてきた。
- ・自社で3次元データを作り機械に入れて直ぐに現場で反映させるようなところは、場合によっては施工期間が半分くらいに圧縮できている。
- ・実際にデータを自社で作成できる会社と、全て外注しないと3Dデータが作成できない会社では、工程がかなり違う。
- ・発注書は設計側で作ったデータをいかに施工側との修正を最小限にして機械に入れるようにするかというところにかかなり興味を持っている。
- ・BIM/CIMというのはICT施工だけではなくて、施工の方も効率化するし、設計や測量自体もデジタル技術を使って効率化することを目的としている。
- ・それプラス発注者が数量を算出したり、積算や発注用のデータを作ったりなどの、発注者の仕事自体も効率化していかなければいけない。

現時点で我々は何ができるか

- ・国のガイドラインを完全に準拠されなくても一つ一つツールを使って慣れていくのは重要である。
- ・国のガイドラインとか三次元成果物作成要領にいかに対応するかという視点も必要だが、それ以外にも最近流行りのDX的なところで我々の仕事を楽にするためにBIM/CIMを活用していくことが大切である。
- ・施工会社の方では三次元データでもらうと楽になるというのはわかっている。その繋ぎのデータをいかに設計の方で作るかという部分にフォーカスすることが良い。

2. 施工分野へのデータ受け渡しの課題とは

【質問2-1】

- ・将来的にソフトで処理できることと我々が気をつけなければならないこと、新たに身に付けないといけないスキルがあると思う。
- ・1つ目の質問は、ピッチの問題とか、バケットのこととか、我々は今まで設計の中で考慮していなかった。施工幅を決めたりする際には機械の幅を検討したが、それ以外にピッチを施工機械をもと

にして図面を書くことはなかった。将来的には機械を設定すれば自動的に配置してくれるとか、そうではなく、設計者が考慮しなければならないのか。

- ・ 2つ目は現状でデータ互換性が十分でないという状況で ICT 施工を進める中で施工業者さんのほうで全部作り直すという話が結構ある。それを少なくする方策はなにかあるか。

【回答 2-1】

- ・ ピッチの件ですが、ソフトはいろいろあるが、基本的には LandXML という共通拡張子で出力をする。出力の際にピッチを設定できるのでそこは難しくはない。
- ・ データ互換に関しては、共通と言うわりには、同じ LandXML なのにソフトに取り込む際にうまく互換しないことがある。互換性が問題なく読めれば施工者の方でピッチを変えることも可能ではある。現状はうまく読めないことが多い。
- ・ SFC、DXF などの 2D の図面であってもまだ完全に互換性があるとは言えず、個人的には今後も互換性に期待することは難しいのではないかと思う。

【岐測協委員のコメント 2-1】

- ・ 設計が作った LandXML の三次元データでそのまま施工した事例はほとんどない。去年、工事用道路の部分だけを（データ作成を）やらせていただいて、ICT の建機で施工するという事があった。そのときには起工測量後の地形データをもって施工データを作った。設計の時に計画の形状はばっちりだというものを作って渡しても施工会社が必ずしもその通りに作るとは限らない。施工会社さんは自分たちの施工に合わせてデータを作り直す。一週間分を作って、並行して施工しながら作っていくとか、いろいろなやり方をされている。イメージとしては、設計のデータがそのまま施工に使えるということは今後も無いのではないか。

施工会社の使っているようなソフトでは横断図を読み込んで法肩を延長するような機能もあり、モデルの修正に適している CAD を使われている。これらのことから、設計のほうから施工会社に渡すデータは何がいいのかな、と模索する段階だと思う。なにも問題なければそのまま施工できるし、問題あった場合には修正するための横断図を渡す、などのハイブリットな形になるのではないか。

【質問 2-2】

- ・ 設計者が作成した LandXML 等のデータはどのように利用されているのか。全く利用されていない場合、それはどのような理由で、どのように ICT 施工用のデータを作成しているのか。

【回答 2-2】

- ・ 施工者側に届いていない。
- ・ 出力方法により読み込みがうまくできないため利用できないことがある。ソフトの中にも、ICT 向きの出力方法だったりとか座標点を出力するなど、方法はいろいろだがデータの並びに不具合があることがある。元データがあれば再度型式を変えて出力する必要があるが、施工業者に元データはなく、結果として設計データが使われない。設計側の作業として土量算出のためのデータは簡単だが、それが機械施工で使えるものか不明。施工の際に、元データから出力形式を変えて、と言われても、設計業務は完了しているので対応できない。ここで行き詰まるため、結果的に施工業者がデータ作成することになる。

3. ICT 土工用データを作成する時の留意点

【質問 3-1】

- ・ ICT 化する時に、どういった視点で設計するとよいか。（通常の設計では、ICT 化に際してここが足りない等）

【回答 3-1】

- ・ 武蔵やサイテックのソフトであると線形に縦断横断をはめていくけれど、横断図だと、NO. 測点と起終点くらいしかない。変化点、例えば小段の始まり終わりの横断図が必要になる。追加で図面を作る必要がある。

【質問 3-2】

- ・ 施工現場では仮設、余掘り等の現場対応が必要な作業があるので、設計で作ったデータが使えないということか。

【回答 3-2】

- ・ 施工用データと評価用データがある。施工用のデータで切り出しの位置を例にすると、地山ギリギリから切り出すデータになっていると、少しでも地山が高かったら設計領域外となり、建機は動かない。なので、切り出し位置は地山より高くしておくのが良い。小段排水を例にすると、ICT で使う 0.7m³ クラスの重機では小段排水の余掘りには利用できないので、0.15m³ クラスの重機を使う。余掘りのデータも起こす必要がある。

【質問 3-3】

- ・ ICT 土工については国交省が河川土工と道路土工について活用を進めているが、どこまでのデータ作成をコンサルに求めているのか。
- ・ コンサルが作成した ICT データと、施工における ICT データの相違点について。

【回答 3-3】

- ・ 施工業者にとってどこまでが完成なのか。例えば、道路の場合、土工の施工業者にとっては路床天端が完成高だが、設計としては表層の仕上がり面が完成高である。実際発注される工事はその 1～2m 下までなので、目指すところがそもそも違う。結果そのままでは使えない状況となる。

【質問 3-4】

- ・ 設計の時の仕上がりの高さと施工の時に必要な高さが違う。今までの図面、計画高を 3D にしてもそのまま施工できないことは分かった。一方、何かを使って施工用の図面を作るという作業が避けられない。
- ・ 今は、3D データがあればそれと 2D の図面を渡しているが、将来的に 3D データだけを渡せばそこから面データが作成でき効率化できると思うが、やはり 3D データだけでは難しいのでしょうか。

【回答 3-4】

- ・ データを 3次元の完成形で作成された場合、構造物があると問題となる。例えば、側溝のコンクリート天端高でデータ作成していると、土工施工業者ではそのデータは使えない。土工にとって必要な高さは土工ラインなので、データを作り直さないといけない。このような事態に対応するためにも、3次元データだけではなく平面図、縦断図、横断図は必要である。標準断面図等、設計の意図がわかる図面は必要である。ただし、完成形の 3D データ、土工用の 3D データ、U 字溝用の 3D データというように工種ごとに細かく 3D がおこされるのであれば、2D の図面がなくなってきても対応できるかもしれない。

【質問 3-5】

- ・ 法面を切る場合など設計と状況が違うことで勾配を変える必要などあると思うが、現場で対応するのか。

【回答 3-5】

- ・ 勾配が変わるとデータの作り替え、少々のもので現場で対応できるものもあるが、勾配が変わるといようなことであれば、設計データの修正を行う必要があるため現場は止まる。

4. ICT 施工と地形データの関係は

【質問 4-1】

- ・ 今後ドローンを用いて 3D の図面を作ることになると思うが、先行きは？

【回答 4-1】

- ・ ICT 施工に地形データは一切必要ない。
- ・ ドローンを用いた 3D 測量は現況の地形を測量することなので、なくなることはないと思う。ドローンで地形を押さえないと設計データができないといわれるが、そんなことはない。災害が起こった時に以前に設計した 3D データとドローンで測量した 3D の測量データを重ねて、原因究明等も可能である。

【質問 4-2】

- ・ 3D 化で斜面のある場所と街中で違いはあるのか。細かく 3D にする必要はあるか。

【回答 4-2】

- ・ ICT は測量ではなく設計なので、関係ない。ICT 施工するには 3D 設計データさえあればよい。現況地形が必要なのは土量算出で利用するくらい。

5. 施工 ICT 土工はどの程度効果があるのか

【質問 5-1】

- ・ ICT 土工と従来のオペレーターのやり方でどのくらい時間短縮できるのか。

【回答 5-1】

- ・ 国交省の目指しているのは、生産性 2 割向上。
- ・ コマツの検証では、状況によるが ICT を使うことで 1.2～1.5 くらい向上する（法面整形の面積等）。また、施工数量だけでなく人区、監督の丁張にかける手間、時間、材料、人の削減などを考えるとのびてきているのは間違いない。

6. BIM/CIM における測量・設計業者の課題と可能性

【質問 6-1】

- ・ 施工業者も ICT 化するのに外注している状況で、とくに中小施工業者ではデータ内製化は困難だと考えられる。我々コンサルが、データ作成という業務に参入していくということもありえる。施工業者によるデータ内製化が困難であれば、データ作成の需要は増えてくると考えられるが、いかがでしょうか。

【回答 6-1】

- ・ 個人的な考えだが、図面作成が青焼きから CAD になったようなことが 3D で起こっているのではないかと思う。将来的には誰もが簡単に使える時がくるのではないかと。

【質問 6-2 中部地方整備局から】

- ・ 岐測協の会員の事例としてどれくらいの作業をされているのか。

【岐測協会員回答 6-2】

- ・ 最初は施工業者から 3D 設計データの作成を依頼された。
当初、国総研の出している LandXML1.2 交換標準に基づいて、細かく舗装とか側溝とかデータを作成したが、表面以外は全部ゴミだと言われて衝撃だった。基準のとおり作ってもほとんど捨てられることがわかり、どの程度まで作ったらいいのかも今はわかっている。
国が決められている基準はオーバースペックとを感じる。国交省では令和 2 年から CIM の納品が始まっているが、モデリングデータ自体は眺めるだけ、数量計算には使えるが施工では使えないのではないかと。施工業者以外にも土木事務所から直接依頼されたこともある。測量から施工まで受けた。データの互換に関しては、LandXML の互換問題は起きなかった。使用ソフトは MTC。地盤データは、グラウンドデータがあったが LandXML にすると横断箇所しか使用しない。
土工に関しては、河川とか道路とかガイドラインでは別れているが、やっていることは一緒である。LandXML1.2 交換標準はピッチも何も記載されていないし、作り直すべきではないかと。

【質問 6-3】

- ・ 設計と施工の区分があるが、今コマツさんは施工業者への橋渡しのような、施工ができる 3 次元データ作成業務までをやられていると思う。将来的にコンサルの仕事として、「施工ができる 3 次元データ作成作業」もやることになるのか、その前の時点の設計までで、施工データ作成は別の業務となるのか。動向によっては、人材を育成しなければならなくなる。施工のノウハウを持っていないとできない。対応できないと、他業種からの参入により仕事がなくなるかもしれないという危機感もある。最低限どういう方向なのか。

【岐測協委員コメント 6-3】

- ・ そのあたりは国に訴えていく必要がある。いままで設計で作ってきた図面というのは、施工するためのものを完全に定義しているものではなかった。20m ピッチの横断では形を指定しておいて、そのピッチ間は用地境界を侵さずに「いい感じに」施工で擦り付けてください、というものだった。ICT 施工に耐えうるものという、例えば 3D プリンターで出力するような最終形を作ることになるが、これまで設計ではそのような細かいことはやっていなかった。いままでの設計のノウハウではそれは作れない。施工会社もそれぞれのやり方があるので、設計で完全なものを作るのは無理がある。そろそろどこまでやればいいのか決まってくるのではないかと。

【回答 6-3】

- ・ データを作る際には、施工業者との打ち合わせでどこを仕上げ面にするか決めて、それに基づいてデータを作る。発注図は発注図で、施工図を別に作っている。施工図は施工業者が作成する。2 次元でも 3 次元でも、施工図までを設計側で作るのは難しいのでは。

7. ICT 土工を勉強するには何をすれば良いか

【質問 7-1】

- ・ ICT 土工を勉強していく上で、どのようなことをすればいいか。

【回答 7-1】

- ・ 丁張とか現況測量。今はドローンで測量も可能だが、現地での起工測量や従来の縦横断測量の基本をおさえておくのが大事では。



「地図教室と測量体験学習」の開催

総務広報委員会

「測量の日」の関連行事として、国土地理院中部地方測量部と当協会が協力して、地図と測量の重要性について理解を深めていただくことを目的に小学校において「地図教室と測量体験学習」を行いました。

内容は、「地図教室」では地図のできるまでとさまざまな地図記号等についての講話、「測量体験学習」では最新の測量機器を使い、距離や高さの測量体験や歩測による距離の測定、ドローンでの記念撮影を行いました。

参加した児童は、トータルステーションに触れ、校舎や遠くの目標物までの距離が即座に分かり驚きの声が上がっていました。

○行事の内容

①地図に関する講話

- ・地図の読み方、使い方についてのわかりやすい講話

②測量体験学習

- ・歩測により長方形の長辺、短辺の長さを測定し、面積を算出
- ・トータルステーション（光波測距機）を使って、距離や高さの測定
- ・ドローンによる撮影





竹鼻小学校



稲羽西小学校





竹鼻小学校 (50音順掲載)



地図教室で「すごい」と思った事
 四年一組 河出 由衣

地図教室で「すごい」と思ったことは、2つあります。

一つ目は、黄色いぼうえんきうみたいなものです。なぜかというところし遠いところなのはそのぼうえんきうで見ると大きく細かったです。それで私は、びっくりしました。ダイヤルに合わせて、大きくなったり小さくなったり、それでそこまでやりが分かるなんて、「すごい」と思いました。

二つ目は、ドローンです。ドローンで上空写真を撮ると、いるときに、木とかにぶつかったりするのには、さりんだからカメラつきでどこにいるのが分かるようにしてありました。見せてもらうとどこたいのか分かりました。地図を作っている人は、こんなふうをしていくことが分かりました。それは、たいへんだと思います。地図を作っている人は、本当にすごいと思いました。!

「地図教室で『すごい』と思った事」 河出 由衣 (竹鼻小学校)

地図教室で学んだ事
 四年二組 高橋 那奈

私は、地図教室で知らない事がたくさん知れました。

心いり、している事が二つあります。一つ目は、地図帳を調べるやくそくがあるということです。地図帳をつくるには、三つのやくそくがあることを知りませんでした。一つ目は、地図の向き(方向)、二つ目は、地図のちぢめ方(しゃくしゃく)、三つ目は、地図の長し方(記号)たしかにこの三つがないとおかしくな、こしまうと思えました。

二つ目は、歩測体験です。自分の歩はばの大きさが知れるよかったです。長方形の横の長さが自分で調べられて、あ、ていながったけれど、自分で長さが調べられて、うれしかったです。

地図帳で次見るときには、三つのやくそくのことなどを見て、使、ていきたいです。

「地図教室で学んだ事」 高橋 那奈 (竹鼻小学校)





国土地理院の方のお話を聞いて
 私はお話を聞いて、心にのこったことか
 ろうあります。
 一つ目は、「作り方のこと」です。作る時には
 わざわざひこうきにのって、街の様子をさつ
 えいするなんて、すごく大へんだなと思いま
 した。
 二つ目は、「長方形の面せきをはかること」で
 す。私は、実、さいに、歩いてはかってみた
 ときに、面せきを、歩いて、計算して、正か
 くにはるなんてすごいな。と思いました。
 三つ目は、「地図のやくそく」です。地図を作
 るのに、三つやくそくがあつて、すべをす
 て作らなさい、いけないと教えてもらつて、
 とてもおどろきました。
 私は、これから、地図帳や、アプリの地図
 などを見るときは、今回教えてもらった、す
 ごくたいへんなことをして、作、てもら、こ
 るということをおぼえ、勉強したいです。

中村 さよ

「国土地理院の方のお話を聞いて」 中村 さよ (竹鼻小学校)

地図教室でおどろいた事
 私、地図教室でおどろいたことが二つあ
 ります。
 一つ目は、地図を作るときに、さつえいし
 た写真をなぞつたりして作ることです。なぞ
 ったほうが、見ながら作るよりも正かくにで
 きるから、なるほどなと思いました。
 二つ目は、昔は北極星という星をさがして
 どこの方向が北なのかを調べていたというこ
 とです。今は、けいたいでコンパスのアプリ
 をひらけば、いつでも方位が分かるけど、昔
 は星をさがさないといけないので、大変だ
 と思いました。
 私は、今までふつうに地図帳を使、ていた
 けれど、なぞ、たりしてていねいに作られて
 いることを知、たので、これから、一つ一
 つの都道府県や市区町村の形にも注目して
 みたいと思いました。

柳田 花帆

「地図教室でおどろいた事」 柳田 花帆 (竹鼻小学校)





おどろきなながら学んだ地図教室
稲羽西小学校 四年 鬼塚 璃沙
私が地図教室で学んだことは、三つあります。
一つ目は、地図のやくそくやし、類がいろいろあることを知りました。地図の方位やちがめ方、表し方がやくそくなんだそうです。とくにすごいと思、たことは、ちがめ方です。地図では、センチメートルが二百五十メートルになるとは知らなかつたので、びっくりしました。でも二十五メートルプールは、書かなかつたり、し、うりやくしたりするものもあ、たりするそうです。ほかには、色をつけてあるものや天気予ほうで使う地図、日本地図など、様々なし、類があることも知りました。色をつけてある地図を初めは、ただ色がついていていただけかと思、ていたけど、高さを表していると知りました。それにメカネをかけると立体に見えるものもあり、ふしぎな感じがありました。

二つ目は、地図記号のことです。地図記号は全部で百三十四し、類もあるそうです。最近できた地図記号は、平成十四年にくわ、た図書館(口)の記号と令和元年にできた自然さがいてんし、う(魚)の記号だそうです。
三つ目は歩測体けんのことです。歩測体けんは、自分の一歩の歩幅をはかりました。そこで、計算をしてたことと横の長さがかかりました。一人一人の歩幅が少しずつちが、ておもしろかつたですが、こうや、て昔の人が歩いてき、りをはか、て地図ができたなんてすごし、と思、いました。
地図教室でいろいろな地図のひみつを知るこがで、き、とても楽しい学習でした。最後に都道府バスルをいた、たいたので、たくさん練習して都道府県の名前を覚えたいです。

「おどろきなながら学んだ地図教室」 鬼塚 璃沙 (稲羽西小学校)





楽しく学んだ地図教室
 稲羽西小学校 四年 溝内 應介
 ぼくが地図教室で初めて知ったことや心に
 残ったことは、三つあります。
 一つ目は、地図のことです。地図を見ると
 日本全体が写っているのがありました。その
 地図は、二つの写真を使、てうつしたり、そ
 れを小さくしたりして、より正かくな地図を
 作、ていることが分かりました。
 二つ目は、歩そく体けんです。歩そくとは
 歩いてはかることだそうです。「歩そくして
 地図ができるなんて、どういふことがな」と
 ふしぎに思いました。実さいに体けんすると
 自分の足でき、りがはかれることや、それで
 昔は、地図を作、ていたなんて、おどろきま
 した。地図教室後に、「伊能忠敬」という本
 を読みました。歩そくで日本を歩き回り作、
 た「伊能図」が現在作る地図と変わらないく
 らい正かくだったことを知、ておどろきまし
 た。

三つ目は、さい後に、ドローンできおんさ
 つえいをしたことです。実さいにドローンを
 見たら、大人の手のひらの六個分もありまし
 た。持、てみたら、思、たい上に重いのに、
 よく、高い空をとべるな、と思ひました。今
 は、ドローンを使、て空からいろいろなこと
 を調べることがあります。昔の人の地図作り
 をすごいなと思ひましたが、やはり、今の技
 じ、つで、使ひ方に合せた地図が作れるこ
 とは、すばらしいです。
 歩そくで地図を作ることも教えてもら、た
 ので、夏休みに家のまわりを歩いて地図を作
 りてみたいです。

「楽しく学んだ地図教室」 溝内 應介 (稲羽西小学校)





たくさん学ぶことができた地図教室

稲羽西小学校 宮崎 凜香

私が地図教室で学んだことは三つあります。一つ目は、国土地理院のことです。国土地理院は地図を作ったり、位置のひょうじゅんを定めたり、防災意識を社会へ向けたり、地図を作る以外にも、いろいろ活動があることが分かりました。とくに地図を作るときに、地図の向き、地図のちぢめ方、地図の記号などをたくさんの方に、気をつけていることを

知りました。地図には、いろいろな種類があって例えば、色か着いている地図、世界地図、天気予ほう、インターネットから見られる地図などがあり、すごいと思いました。

二つ目は、測量体験のことです。地図教室では、測量体験をしました。運動場に書いてある長方形のたてと横の歩数を教えて長方形の面積を出しました。昔はすぐ測量ができなかつたので、大変な感じでした。今はとても便利な測量の機械を使つて、すぐにきより

が分かるのです。すごいと思いました。最後にドローンで、四年生で写真をとりました。知らないことが知れたのでよかつたです。

三つ目は、地図記号のことです。山という地図記号は令和元年から新しくかわつてきた地図記号だそうです。名前は、自然災害でんしょうひです。私はこの地図記号が新しく令和元年からかわつてきたことを知らなかつたのでおどろきました。地図記号は全部で百種類以上あるそうです。そんなには知りませんでしたが、

地図は、一枚の地図からいろいろなたくさんの方が分かるので、私達の生活にはかかせないものだなと思いました。地図教室でたくさん学ぶことができました。そのことを社会のじ、業にも活かしていきたいです。本当にありがとうございます。

「たくさん学ぶことができた地図教室」 宮崎 凜香 (稲羽西小学校)





「楽しかった地図教室」
稲羽西小学校 山本 逞斗

ほか楽しかったことは、二つあります。
一つ目は、地図記号のことです。理由は、橋（ニ）や神社（ハ）、工場（ホ）など全部で14こもあるのがおどろきでした。とくに、地図記号の中で、自然災害伝しうひ（五）が一番新しいということが初めて知れて、うれしかったです。

二つ目は、測量体験です。理由は、黄色と黒色のぼうのついたコーンの先の方まで見えてコーンまでのま、りを引く単に知ることかできて、すごいからです。最後のドローンで記念さつえいでは、高く飛んだソ自由に動いたりして、か、こよかったです。

これからは、地図記号をあまリ使ったことかながったので、いろいろな地図記号を覚えて使っていきたいです。

「楽しかった地図教室」 山本 逞斗 (稲羽西小学校)





岐測協フォトコンテスト2021

総務広報委員会

昨年に引き続き、岐測協をPRし、魅力ある測量設計業の創出とともに、担い手不足解消を図っていくことを目的に「岐測協フォトコンテスト ～山と水が織りなす2021～」を開催しました。

募集期間が短かったにも関わらず、『未来を創る人財』の部に19作品、『構造物がある岐阜の風景』の部に23作品の応募がありました。

当委員会の厳正な選考により、各部門ともに最優秀賞1作品、優秀賞3作品を選出させていただきました。応募いただきました作品は総務広報委員会管理の元、様々なPR活動に活用させていただきます。

会員の皆様のご協力に感謝いたします。

『未来を創る人財』の部



最優秀賞

『山ガールから治山女子へ』

(株) 三進 林崎美穂

【撮影者コメント】

建設コンサルタント業界に、治山女子ムーブメントを起したい！。

【選考時コメント】

山地の荒廃を防ぐ治山施設の保全調査するため、道なき道を進む女子に山への思いを感じる作品である。

『構造物がある岐阜の風景』の部

最優秀賞

『人々に親しまれる砂防堰堤』

(株) 三進 山田雄大

【撮影者コメント】

本巣市根尾にある鷺巣谷第1ダムで、滝裏を通行できる珍しいダムを撮影した。

【選考時コメント】

砂防堰堤の魅力を引き出している作品であり、土木構造物と自然の調和が印象的である。



優秀賞

『未来を創る人財』の部



『機器から見える世界』
(株) 創信 喜瀬慎氣



『師弟』
(株) メイホーエンジニアリング 中村章成



『新人 VS ベテラン』
(株) 南出測量設計 服部 剛

『構造物がある岐阜の風景』の部



『自然の脅威』
大同コンサルタント (株) 榎原寛之



『四つの道 (トンネル) が交わる場所』
(株) 三栄コンサルタント 小林繁博



『陽光のカーテン』
大同コンサルタント (株) 橋戸 悟

大きな写真を見たい方！
Google スライドにて公開中です⇒



岐阜県立大垣工業高等学校

建設工学科 児玉 英哉



建設工学科の取組

1. 学校の概要



本校は、大正15年（1926年）岐阜県第二工業学校として大垣市南若森町に機械科、電気科、建築科の3学科で開校され、昭和14年には第二本科（夜間部）が設置されました。また、後に合併する大垣市立工業学校は昭和19年（1944年）に電気通信科と土木科の2学科で開校されました。昭和23年、学校再配置により大垣市立工業学校と合併し岐阜県立大垣工業高等学校と改称されました。現在は全日制に機械工学科、電子機械工学科、土木工学科、建築工学科、化学技術工学科、電気工学科、電子工学科、情報技術工学科の8学科8クラス、定時制に工業技術科の1学科1クラス、全校生徒約1000人の工業に関する専門高校となっています。また、令和2年度からは全日制の入

試方法が変更され、機械工学科、電子機械工学科が機械工学科群（3クラス）、土木工学科、建築工学科を建設工学科群（1クラス）、電気工学科、電子工学科、情報技術工学科を電気・電子工学科群（3クラス）とし、三つの学科群と化学技術工学科に分けて募集することになり、これにより、建設工学科としていた土木科と建築科が、それぞれ単独の土木工学科、建築工学科となりました。

校訓「質実剛健」のもとに、豊かな人間性と、たくましい身体、工業人としての基礎的な知識・技術を身につけ社会の要望や変化に対応できる人物を育成することを目標としています。また、西濃地区唯一の工業高校として地域からの期待も大きく、卒業後は、専門性を生かし、西濃地区をはじめ県内外の大手企業などに約75%の生徒が就職します。その他、4年制大学をはじめ、短期大学、専門学校などに約25%の生徒が進学し、県内外で活躍しています。

部活動は、運動系と文化系、生産系部活動があります。運動系部活動は、強豪校の伝統があるサッカー部をはじめ、バスケットボール部、レスリング部など13の部活動があります。文化系部活動は、吹奏楽部や写真部、全国大会でも活躍している放送部など6つの部活動があります。生産系部活動は、学科ごとに設けられた7つの部活動があり、高度な資格取得をはじめ、ものづくりコンテストや技能五輪など各種大会で活躍しています。また、地域貢献やボランティア活動にも積極的に参加し、毎月、大垣駅周辺で行われる大垣市が主催する「元気ハツラツ市」への出展や、大垣特別支援学校と協働し、障がいを持った子供たちのための教材開発を行う「テクノ・ボランティア」、西濃地区の小中学校に出向き、子供たちとのものづくりを行う「出前授業」など、大垣市や周辺地域と連携して、地域に根差したものづくり人材を育成する活動を行っています。



2. 建設工学科の取組

(1) 目指す目標

本学科では、「自然環境と人間が共存できる都市空間。安全で安らぎのある快適な住空間の創造」をテーマに、建設技術者としての専門性はもちろん、工事を安全で円滑に進めることができるコミュニケーション能力の高い生徒の育成を目指しています。

(2) 教育内容

1年生で建設工学の基礎を学び、2年生から専門性を高めるために土木工学科と建築工学科のどちらかを選択し、土木工学科では測量・土木施工・土木基礎力学・社会基盤工学、建築工学科では建築構造・建築計画・建築構造設計・建築施工・建築法規を学習します。特に、製図・測量・CADの学習については、両学科とも1～3年生まで全学年で学習します。また、今年度中にはBIMや3D点群処理システムが配備され、建設ICTに対応した学習がさらに加速します。



(3) 取得できる資格

建設工学科の特性を生かし、土木系・建築系の両方の資格が取得できるよう、放課後の補習などを行っています。

測量士補・2級土木施工管理技術者検定

2級建築施工管理技術者検定・大工技能検定

危険物取扱責任者・玉掛け技能講習・ガス溶接技能講習

クレーン運転特別教育講習・小型車両系建設機械運転特別教育講習



(4) 地域との連携

毎月、第1日曜日に大垣駅前通りで行われる『元氣ハツラツ市』や、地域で行われるイベントやお祭りに出展し、世代の違う方々と触れ合うことで、生徒たちのコミュニケーション能力を向上させてもらっています。近年は、田んぼアートの依頼も多く、新しい分野の研究も進めています。



(5) 建設工学部

建設工学科群に付属する建設工学部では、地域連携事業や資格取得、工業にかかわるコンテストやコンペに挑戦しています。近年は、測量班の活躍が目覚ましく、高校生ものづくりコンテスト県大会において上位入賞常連校となり、平成29年度には全国大会で準優勝、今年度（令和3年度）も全国大会への切符をつかみ、過去の成績を超えるべく、日々練習を重ねています。



3. 終わりに

昨今の建設業界は、日本の少子高齢化に伴った深刻な人手不足と、工事を効率的で安全に行うための技術・工法の開発が進んでいます。特に、建設業のICT化は想像以上の速さで進み、建設技術者には今まで以上に多様な能力が求められるようになると思われます。今後も、様々な状況に対応できる応用力と調整力、互いが協力し合えるコミュニケーション能力が備わった人材を育てていきます。

最後に、このような学校紹介の機会をいただいたことに感謝を申し上げますとともに、貴協会会員の皆さまの益々のご活躍と発展をお祈り申し上げます。

岐阜県立可児工業高等学校

建設工学科 藤井 文宏



建設工学科群の取組

1. 学校・学科の概要

可児工業高等学校は、昭和38年に機械科、電気科、工業化学科で創立され、昭和49年に建築科が新設された。昨年度より定員の変更、今年度より学科名が変更され、現在は機械工学科35名、電気工学科35名、化学技術工学科35名、建設工学科群40名（建設工学科群として入学後、2年生より建築工学科、土木工学科に分かれる）の定員で、3学年合わせて540名規模の専門高校である。また、所在地は可児市の中心地にあり、美濃加茂市などを含めた可茂地区において、唯一の工業高校である。生徒は、可茂地区に限らず、下呂市や多治見市、各務原市などの広範囲から通学している。基本的な生活習慣の確立を基盤として、学業や部活動さらに資格取得を目指している。進路は県内や隣接する愛知県の企業に7割が就職し、大学・専門学校へ3割が進学している。

建設工学科群は、平成3年に建築科を廃止したときに新設され、建築コースと環境システムコースが設置された。その後、コース間の隔たりや選択の期間を考慮して、1年次は建設工学科群として工業と建設系の基礎科目を学習しながら、建築・土木の学科選択を考える期間とし、2・3年次は選択した学科の専門科目を学習できるようになっている。現在は、地元企業だけでなく全国展開している企業や公務員へ就職する卒業生もいる。

2. 近年の取組

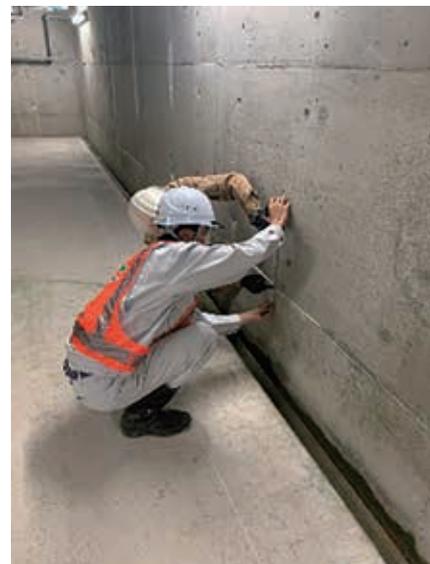
① 授業

土木工学科では、建設の基礎的な技能・知識を習得するためにカリキュラムを設定している。特に実習は全学年次に週2～4時間、製図は週2時間設定している。内容は、測量実習（レベル、トータルステーションの操作）や施工実習（コンクリート材料実験、丁張）、技能実習（溶接や木材加工）。また、製図では、手書きの製図や模型製作、CADを用いた製図を主に学習している。



② 中長期インターンシップ（就業体験）

学校全体のインターンシップとしては、例年夏休みの3日間を用いて行っているが、建設現場の移り変わりを長期的に体験できるよう、可茂地区を中心として、多治見地区の建設系企業様にご協力いただき、2年生の希望者を対象に9～11月の3カ月間、週1日企業を訪問する中長期インターンシップを行っている。受け入れをして頂いている企業様には、地域の子供を育てる、将来の技術者、技能者を育てるという気構えで生徒を教育して頂いている。また、生徒たちも、建設業の魅力を十分に体感し、さらに、各企業の社員様の暖かさを感じることができ有意義な期間を過ごしている。



③ 建設業協会との連携

県内の建設系企業との連携を通して、生徒に正しい建設業の情報を提供できるよう心掛けている。特に建設技術が日々進歩し、また、建設業界を取り巻く環境も刻々と変化していることも踏まえて、毎年、数回の現場見学会を実施しており、生徒の職業観の育成を図っている。

また、本校の地元でもある可茂建設業協会様からは、中学生対象の一日入学やオープンキャンパス時に建設機械やドローンなどを提供していただき、未来の土木技術者の発掘にもご協力いただいている。

④ ドローン教育

近年、建設業界における急速な ICT 化に対応すべく、本校では岐阜ドローン様と提携を結ぶことができ、年に 6 回授業の中でドローン講習を行っている。この講習の中で、ドローンを飛行させるための、法律や基本的なルール、操縦方法を学び、就職後に抵抗なく業務が行えるように、教育を行っている。また、昨年度、実習室に BIM/CIM 実習装置が整備され、急速に変化している建設業界へ就職する生徒たちに先端技術を学ぶ環境が整備されている。



⑤ 高校生ものづくりコンテスト

毎年、県内の工業土木系学科が参加するものづくりコンテストへの取り組みを精力的に行っている。競技内容は、閉合トラバース測定の精度（正確さ）と作業時間（迅速さ）を競うものであり、各校が器械の据え付けや測量精度を上げるための練習を行っている。また、毎年、貴協会から専門家として審査員を派遣していただき、生徒へのアドバイスをいただき感謝しています。



⑥ 各種検定・資格試験への取組

本校土木工学科では、土木分野の資格である「測量士補」「2級土木施工管理技士（学科）」にチャレンジする機会を設けている。また、建築 CAD 検定や小型車両系建設機械安全衛生特別講習など様々な資格に挑戦して、専門分野だけでなく、より良い技術者になれるように多様な価値観を身に付けるために、取り組んでいる。



3. 学校・学科の概要

今日の度重なる自然災害や、ビックプロジェクトなど、建設業界の活躍が多いに期待される中、本学科は、本校卒業生を貴協会の企業や、地元建設業へ輩出できることを目指している。基礎・基本を重視した学力をベースとし幅広い知識を身に付け、教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな土木技術者の育成に努めていく所存である。

結びにあたり、(一社)岐阜県測量設計業協会の会員の皆様におかれましては、益々のご活躍・ご発展を心よりお祈り申し上げます。

新 入 社 員 紹 介

(50音順掲載)

名 前

青木 七海 (あおき ななみ)

勤務先

大日コンサルタント株式会社
コンサルタント事業部 交通基盤
計画部 道路第1グループ

趣味・特技

ピアノ、水泳、バレーボール、
ぶよぶよ (パズルゲーム)

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

面白くて穏やかな人が好きです。好きな有名人はタイプとは違いますが、芸人のジャルジャルの後藤淳平さんが好きです。

入社後の感想

新しく学ぶことが毎日のようにあり、知識やできるようになることが増える度に成長を感じとても楽しいです。上司や先輩方も優しく面白いため、困った時や分からないことがあった時に聞きやすく、良い環境で動かして頂いていると感じています。

今後の抱負

今は、周りの方々に助けて頂いていることが多いので、少しでも早く自分で業務を進められるようになりたいです。そのために、失敗を恐れず自ら積極的に学び、ひとつでも多くのことを吸収できるような毎日を過ごします。



名 前

今岡 蒼 (いまおか あおい)

勤務先

株式会社イビソク
まちづくり部

趣味・特技

温泉めぐり

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

草刈正雄さんのような包容力のある人。

入社後の感想

まだ分からないことが多く、目の前の仕事をこなすことで精一杯ですが、やりがいを感じています。専門的な知識が必要となることが多いですが、質問もしやすい雰囲気のため、都度、疑問点を解決でき、安心して仕事に取り組むことができます。

今後の抱負

事業支援を行う業務が多いため、幅広い知識を身に付け、より良い提案ができる技術者になりたいです。また、話す力と聞く力の必要性も強く感じています。相手に伝わりやすい話し方や、相手の話している意図の正確な理解が出来るように、日頃の会話から心がけていきたいです。



名 前

沖野 友哉 (おきの ともや)

勤務先

株式会社イビソク
設計部 設計一課

趣味・特技

映画鑑賞、料理、バドミントン、
スノーボード

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

いつも笑顔でいる人。有名人に例えると吉岡里帆。

入社後の感想

入社して半年が経ちました。慣れないことや新しく学ぶことが多く、あっという間だったと感じています。仕事は少しずつ覚えてきましたがまだまだ知識不足を感じる事が多く大変です。上司や先輩方に積極的にアドバイスをもらい、多くのことを学んでいきたいです。また、今後は更に専門的な知識量が必要になるため自主的に勉強していく習慣をつける必要があると思います。

今後の抱負

まずは、業務を正確かつ効率よく進めていく力を付けたいです。また、解らないことがあったら積極的に質問し、自分で知識をつけていけるよう行動していきたいです。専門知識や技術を付けるためにも資格取得に挑戦し、様々な業務に携わっていけるようにしたいと思っています。少しでも会社、そして社会に貢献できるようになりたいです。



名 前

奥村 樹 (おくむら いつき)

勤務先

中央エンジニアリング株式会社
技術部 設計課

趣味・特技

バスケットボール、ボルダリング

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

浜辺美波さんのような可愛い人。

入社後の感想

専門用語を早く理解しなければならぬと感じている。思っていたよりデスクワークが多く、上手くいかないことも多いが、先輩方に教えていただきながら充実した日々を過ごしている。

今後の抱負

知識不足を感じる事が多いので、分からない専門用語などが出来たらすぐにメモを取り調べるようにし、知識をつけられるようにしたい。

また、技術士の資格取得に向けた学習も行いたい。



名前

小柳津 有香 (おやいづ ゆか)

勤務先

株式会社テイコク
ジオスペースセンター 空間計測部

趣味・特技

森林巡り、イラストを描くこと



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

熱意があって、努力できる人。

入社後の感想

周囲の先輩方が丁寧に指導して下さるおかげで、少しずつできることも増えてきましたが、まだまだ分からないことが多いです。大学で学んだ測量とは違い、計算も図化もコンピューターで簡単にできてしまいますが、技術者の知識や理解が必要であることには変わらないのだと痛感します。幅広い業務に関わらせていただける今の環境に感謝して、これからも貪欲に知識を吸収したいです。

今後の抱負

早く正確に業務をこなせるようになりたいです。そのためには、業務の全体の流れの中で今何をしているのか、その先何をすべきかということを常に考えて仕事に取り組む必要があると考えます。また、分からないことは先輩や上司に質問したり、自ら調べたりすることで、早めに解決できるようにしたいです。

名前

佐々木 悠伎 (ささき ゆうき)

勤務先

大同コンサルタンツ株式会社
技術部 交通技術室

趣味・特技

野球観戦、ランニング



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

一緒にいて楽しい人。雰囲気としては戸田恵梨香。

入社後の感想

学生時代と環境がガラッと変わり、実力不足を痛感しています。あらゆることを上司や先輩社員から丁寧に教えていただいているので、指摘されたことをしっかりと覚え、少しずつ自分のできることを増やしていきたいです。

今後の抱負

土木業界は、社会貢献度が高く、全くとして同じ仕事がないことが魅力的だと思う反面、責任の伴う仕事だと感じています。自分の行動が会社の行動になることを念頭に置いて業務に取り組み、上司や先輩社員の力になれるよう努力していきたいです。

名前

清水 百星 (しみず ももせ)

勤務先

株式会社興栄コンサルタント
技術一部

趣味・特技

写真撮影、バスケットボール、
イラスト制作



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

私は神木隆之介さんのような明るくて周りの人がニコニコしている人が好きです。

入社後の感想

作業内容が現場作業から書類の作成と多岐に渡るため、毎日が勉強でとても充実しています。早く一人前の技術士になるために、まずは今年受験する技術士第一次試験に合格することを目標に自己研鑽に励んでいきます。

今後の抱負

技術力を身に付けるために資格取得が大切になってきますので、20代の間で技術士の資格を取得したいと考えています。また資格だけでなく経験を積むことも重要ですので毎日の業務から一つでも多くの学びを得られるように、日々アンテナを張って成長していきたいです。

名前

砂田 兼吾 (すなだ けんご)

勤務先

株式会社相和コンサルタント
設計課

趣味・特技

オンラインゲーム 等



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

ボブヘアのような髪型が似合う方が好きです。

入社後の感想

今までに経験したことのない業種でしたので、毎日聞くこと見ることが覚えることばかりで大変ですが、先輩方には明るく接してもらい、会社自体の雰囲気もよく、日々の仕事は充実していると思います。

今後の抱負

まだまだ知らない技術ばかりなので、いち早く知識を吸収し自社の業務に貢献できるよう努めていきたいです。又、資格が大事な職場ですので、自分が取得できそうな資格は積極的に取組みたいと考えています。

新 入 社 員 紹 介

(50音順掲載)

名 前

高井 雅利 (たかい まさとし)

勤務先

株式会社朝日土質設計コンサル
タント 設計部

趣味・特技

温泉・サイクリング・写真撮影



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

朝日奈央さんや百田夏菜子さんのように明るく元気で、笑顔あふれる方が好きです。

入社後の感想

この業界では幅広い知識が必要なので、日々の業務をしっかりこなしつつ勉強するといったことが必要ですが、様々な経歴をお持ちで経験豊富な上司や先輩が多く、上司や先輩の姿から日々学ばせていただくことが沢山あります。また人柄が良い方ばかりで、相談もし易いため、スムーズに知識を身に付けていくことが可能であると感じています。

今後の抱負

技術士やRCCM等の資格が取得できるように自己研鑽に励みつつ、地域住民の安全な暮らしを維持しなければならないという使命を持って、上司や先輩から信頼していただけるように日々の業務を一人前にこなせるようになりたいと考えております。

名 前

高橋 いよ (たかはし いよ)

勤務先

大同コンサルタンツ株式会社
技術部 交通技術室

趣味・特技

ソフトボール、カメラ、筋トレ

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

男気のある優しい人 (大谷翔平)

入社後の感想

大学で土木の勉強をしていなかったのですが、入社前は不安でいっぱいでしたが、先輩や上司の方々に丁寧に教えていただき、毎日の業務が勉強になり、できることが毎日増え、とても充実しています。今後も努力を怠らず、業務を行っていきたくたいです。

今後の抱負

まだまだわからないことが多いので、できるだけ多くのことを早くできるように、毎日の業務の中で意識していきます。また、11月にある技術士補の資格試験に合格できるよう努力していきたくたいです。



名 前

坪内 友亮 (つぼうち ゆうすけ)

勤務先

株式会社相和コンサルタント
測量部

趣味・特技

コーヒー、映画鑑賞、カラオケ



好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

芸能人に例えると、堀北真希さん。趣味と一緒に楽しんでもくれる人。

入社後の感想

測量の仕事は想像していたよりも忙しく、体力不足を痛感しています。真夏でも屋外の作業に耐えていける身体を作りたいです。入社半年が経っても、まだまだ知識や技術が未熟なので、上司や先輩方の指導を受けて成長していきたいと思っています。

今後の抱負

測量士補の資格を取得することを当面の目標にしています。現場では焦らず落ち着いて、正確さと早さに拘り、ミスをしないうにしたいです。たくさんの経験を積んで、自信をもって出来ますと言える仕事を増やして、会社の戦力として認められるように頑張りたいと思います。

名 前

中根 弘喜 (なかね ひろき)

勤務先

株式会社テイコク
社会システムセンター
都市環境部

趣味・特技

スポーツ観戦、旅行

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

本田翼さん。

入社後の感想

幅広い知識の必要性、責任感の大切さを日々感じています。知識不足で不安になることがありますが、環境に恵まれ先輩方に丁寧に指導していただいております。指導されたことを無駄にせず、少しずつスキルアップしていきたくたいです。

今後の抱負

目標は業務の流れを理解すること、正確に作業を進められるようになることです。達成するためには、専門的な知識を得ることや、今自分が何をすべきか把握することが重要だと思っています。日頃の業務を通して経験を積み、精進していきたくたいです。



名前

西井 亮太 (にしい りょうた)

勤務先

株式会社イビソク
基盤整備部

趣味・特技

バスケット

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

人と話すのが好きで会話が弾む人。

入社後の感想

入社して半年が過ぎ様々な仕事に携わってきましたが、慣れないことがまだまだ多いと感じます。分からないことがあれば積極的に先輩や上司の方に聞いたり、自分で調べたりして、手順を覚えることを目標に仕事に取り組んでいます。

今後の抱負

毎日多様な業務をこなす忙しい日々を送っていますが、余裕が出てきたらどうすれば効率的に進められるか、改善できる箇所がないか等を考えて、それを実際の作業に反映させていきたいと思っています。そのため、まずは与えられた作業を確実にこなし、教えて頂いたことを定着させて成長していきたいです。



名前

東 優里 (ひがし ゆうり)

勤務先

株式会社東海プランニング
調査部

趣味・特技

ゲーム、絵描き、音楽、カラオケ、
映画鑑賞

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

ジェyson・ステイサムみたいな高級車とスーツとサングラスが似合うカッコいい人が好きです。

入社後の感想

入社前は不安なことだらけでしたが、優しい先輩方がいて入社後の今はとても充実した日々を送っています。まだPCの操作やアプリの使い方に慣れていないので、先輩の説明を聞きながらメモを取り、覚える為の時間と練習が必要だと思いました。

今後の抱負

入社してからまだ慣れていない部分もありミスをしてしまって、周りに迷惑をかけてしまったことがありました。今後は少しでもミスを減らしていけるように、先輩方に聞きながら一つずつしっかり覚えて、役立てるようになりたいです。また、測量士補の国試に向けて合格できるよう勉強していき、知識と技術面での向上に努めていきたいです。



名前

菱川 颯介 (ひしかわ そうすけ)

勤務先

株式会社テイコク
コンサルタント本部 技術第1部

趣味・特技

バスケット、温泉

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

北川景子 カッコよく魅力的な女性です。

入社後の感想

入社当初から希望していた設計業務に携わり、主に道路の計画・検討を行っています。幅広い知識が必要であり、勉強ばかりの毎日ですが、先輩方からの丁寧な指導もあって日々の成長を実感しながら充実した毎日をお過ごしています。

今後の抱負

しばらくの間は、仕事内容を覚えることや指示されるままに仕事をする事で精一杯になると思います。仕事に慣れ、少しでも早く1人前になれるよう、創意工夫を試みながら仕事にチャレンジする気持ちを持ち続けていきたいと思っています。



名前

日比野 凌也 (ひびの りょうや)

勤務先

大日コンサルタント株式会社
コンサルタント事業部
橋梁構造部 第1グループ

趣味・特技

サッカー、フットサル、ゴルフ

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

新木優子みたいなスタイルが良く、笑顔が素敵な方です。

入社後の感想

橋梁は専門的な知識が多く、日々勉強の毎日です。分からないことは、先輩方が丁寧に指導して下さるので、徐々にできる事が増えています。想像していた以上に業務が多いですが、その分やりがいも感じます。

今後の抱負

橋梁設計の業務に関わる中で、多くの知識や経験を得て、先輩方のような技術者になれるように頑張ります。



新 入 社 員 紹 介

(50音順掲載)

名 前

保坂 慎太郎 (ほさか しんたろう)

勤務先

株式会社興栄コンサルタント
技術第一部

趣味・特技

旅行、アウトドア

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

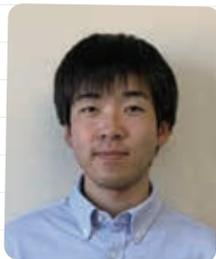
笑顔が素敵な明るい人。

入社後の感想

これまでに学んでこなかった専門知識が多く、まだまだ分からないことばかりですが、業務内容を一つ一つ丁寧に先輩方から教えていただき日々勉強しています。とても過ごしやすい職場環境なので、気負うことなくのびのびと仕事に専念できています。

今後の抱負

現場での作業と社内での作業、どちらにおいてもスキルや経験が求められるので、まずは最低限一通りの仕事内容を先輩に頼らずにこなせる力を身に付けたいと思います。また、技術士をはじめとした業務に関わる資格を取得できるよう、勉強していきたいです。



名 前

牧野 直也 (まきの なおや)

勤務先

株式会社興栄コンサルタント
技術第四部

趣味・特技

ゲーム、音楽鑑賞

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

好きになった人。

入社後の感想

先輩との実力の差を感じた。専門学校である程度測量のことについて学んだがそれでも技術力や知識力が足りてないと実感する。毎日忙しいがその中で技術や知識の向上を目指していきたい。

今後の抱負

測量士補の資格を持っているので、実務をこなして経験を積み、測量士の資格を取り、仕事に役立てていきたい。今後は上司の人や先輩から頼りにされたり任せてもらえるように次に何をやらなければいいかを常に考え、効率的に事を運べるようにしていきたい。



名 前

松下 優翔 (まつした ゆうと)

勤務先

大日コンサルタント株式会社
コンサルタント事業部 橋梁構造部
橋梁構造第1グループ

趣味・特技

サッカー、サーフィン、
スノーボード、BMX、ドライブ、カフェ巡り

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

大人っぽい雰囲気的女性が好きで、偶然テレビで見かけた、高橋メアリージュンにハートを射抜かれました。

入社後の感想

入社後も勉強することが多く大変ですが、専門的な知識など新しいことを知る楽しさを感じながら仕事をしています。入社前は仕事に対する不安もありましたが、わからないことは先輩方が丁寧に教えてくださるので、安心して仕事ができます。

今後の抱負

現在、業務の中でCIMの勉強、作業を行っています。1年目でCIMに携わっていることは、大きな自分の武器になると思うので、今後さらに理解を深め、極めていきたいです。



名 前

村田 沙也香 (むらた さやか)

勤務先

大同コンサルタンツ株式会社
技術部 構造土質技術部

趣味・特技

漫画を読む、ドラム、手芸系

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

横尾渉、大野智さんのように何を考えているかわかりにくい人。

入社後の感想

研修期間中は同期の人達と相談しながら作業を行っていましたが、研修期間が終わりそれぞれの部署に配属されてからは一人で作業をするようになり不安がありました。しかし、先輩や上司の方が作業内容を丁寧に教えて下さるため、その不安も今では薄れてきました。知識と経験が必要な仕事なので、日々努力していきたいと思いました。

今後の抱負

1年目は作業内容を覚えて、知識を増やしていこうと思っています。2年目からは任せられる仕事が多くなってくると思うので、仕事内容を把握し、どの業務を優先すべきなのか、どのように動いたら効率的なのかを考えながら仕事をしたいです。また、地質の仕事は知識だけでなく体力も必要な仕事のため、運動をして体力をつけたいと思います。



名前

山崎 宏祐 (やまざき こうすけ)

勤務先

中央エンジニアリング株式会社
技術部 計測課

趣味・特技

登山 キャンプ

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

本田翼さんのような笑顔が素敵な方が好きです。

入社後の感想

学生時代に測量を学んだが、仕事を行うにつれ、測量の知識不足やコミュニケーション能力の不足を日々痛感している。分からない事があるたびに上司に聞き、言われたことをメモする日々を過ごしている。毎日が新しいことだらけで、忙しくもあるが、充実した日々を過ごしている。

今後の抱負

覚えることがたくさんあるが、まず一つ一つのことを学んで、最初は時間がかかったとしてもやり遂げ、知識を蓄えていきます。そして仕事にいち早く慣れ、業務に貢献できるように、失敗を恐れずに仕事を続けていきたい。



名前

渡邊 真人 (わたなべ まこと)

勤務先

株式会社ユニオン
設計部 第二グループ

趣味・特技

野球 ドローン撮影

好みの異性のタイプは(有名人で例えると)

何事にも一生懸命な人。

入社後の感想

入社をしてから、今日までとても充実した社会人生活を送れていると感じています。学生時代の印象として、建設コンサルタント業はかっちりとしたイメージがありましたが、弊社は良い意味でラフな感じでとても居心地の良い会社だと感じています。入社当初は右も左も分からない状態でしたが、今では少しずつ仕事の意味を理解できるようになり楽しさも感じています。

今後の抱負

まずは11月にある技術士補に合格し、20代で技術士を取得するのが目標です。そのために、毎日の業務をただ単にこなすだけでなく、業務の意義を考えた設計をしていくことで技術士二次試験に繋がると思っています。また、新聞を読む習慣もないので、少しずつ習慣づけできるようにしていきたいです。





自己紹介

市川 聖佳 (入社2年目)
(株) ユニオン

大学では自然環境について学んでおり、現在はため池や畑地かんがい施設に関する業務を担当しています。

業務にての自分の立ち位置

入社して1年半が経過しましたが、まだまだ知らないことばかりで先輩や上司の方に色々教えていただきながら働いています。図面の書き方から水理計算の仕方など新しく学ぶことが多く、毎日新鮮な気持ちで働いています。

頑張っている点や苦勞している点について

入社当時は土木に関する知識が全然なかったため、会話の中で出てくる基本的な単語の意味もわからなく、苦勞しました。また、現地調査では、山林や藪の中を歩くこともあるため、体力面でも上の人についていけるように頑張りたいです。

業務でのやりがいについて

できることが日々増えていくことが非常にうれしいです。CADの扱いや設計の考え方など、少しずつですが覚えていくことで、仕事の楽しさも増えている気がします。

この業界を選んだ理由

学生時代に農業や環境について学んできたため、それらに関わる仕事につきたいと思い、この業界を選びました。また、生まれ育った町に恩返しをしたいという気持ちもあり、地元密着型の会社に入社しました。

未来の技術者へのメッセージ

知識や経験がない状態でのスタートということとは、その分伸びしろがあるということだと考えています。女性技術者はまだ少ないですが、一緒に建設コンサルタント業界を盛り上げていきましょう。



豪雨調査業務を行った
岐阜県高山市のため池



自己紹介

ウィターナ ヴェスマ
(入社2年目)
(株) 三栄コンサルタント

日本で土木工学や建築工学を学ぶため、スリランカより来日し、名古屋大学の環境土木・建築学科を卒業し、土木技術者を目指すため、三栄コンサルタントに入社しました。

業務にての自分の立ち位置

現在、インフラ保全室に配属し、測量業務、各種点検業務に携わっています。業務対応の役割としては、点検調査結果のデータ管理・写真管理・調書作成等、さらに設計補助として道路設計や河川設計にも携わっております。

頑張っている点や苦勞している点について

入社2年目で、まだまだ分からないところも沢山あり、日々勉強ですが、業務で係わる社員の皆さんから専門知識を吸収できるように励んでいます。私の第三言語になる日本語でのキャッチボールが大変な場合もありますが、会社の皆さんとうまくコミュニケーションが取れるように頑張っております。

業務でのやりがいについて

日本のインフラ技術の知識を学びながら、人々の暮らしを支えたり、また地図に残ったりする街づくりを担っている仕事でやりがいを感じます。数年後、私が携わっていた業務で完成した社会インフラが地域の安心安全に寄与することが大きなやりがいです。

この業界を選んだ理由

各国の発展には社会インフラの建設が不可欠なものになっております。社会インフラの建設を通じて、母国のスリランカをはじめ、開発途上国のインフラの開発に貢献したいという夢があるので、技術や専門知識に優れた日本の建設関連会社で働きながら専門知識を深めたいと思って建設コンサルタント業界を選びました。

未来の技術者へのメッセージ

建設業界は3Kといったイメージがあり、かつ女性の活躍が少ない業界でしたが、そのイメージを払拭し、働きやすい環境を作るために企業が様々な取り組みを行っておりますので、社会資本整備に携わりながら、地図に残る社会インフラが完成した時に達成感が味わえる仕事に是非チャレンジしてください。



馬瀬川にて、堤防点検実施中



自己紹介

遠藤 滉己 (入社5年目)
中央エンジニアリング(株)
技術部 設計課

業務にての自分の立ち位置

業務の担当者として業務を進めることが増え、自分自身の工程管理、また、後輩社員への指導等があります。

頑張っている点や苦労している点について

業務や発注者によって業務のやり方が違い、基準等も多く、業務のやり方を覚えながら作業していく点が大変です。

業務でのやりがいについて

設計業務では、自分自身が業務に携わった場所が施工され、利用者などの安全が確保できており、利便性が上がっていた時にやりがいを感じる。

橋梁点検業務では、色々な橋梁の点検に携われるため、橋梁の構造、損傷などの知識を高めることができ、やりがいを感じる。



橋梁点検業務、点検車の状況

この業界を選んだ理由

高校で学んだことを生かせるような業界に入りたいと思い、恩師に相談したところ建設コンサルタント業を紹介され、興味を持ちこの業界を選びました。

未来の技術者へのメッセージ

日々覚えることが多く、効率良く業務を遂行するのが大変な業種ですが、身に付けた知識は確実に自分のものとなりますので頑張ってください。



自己紹介

木全 恒清 (入社8年目)
大同コンサルタンツ(株)
技術部 構造土質技術室

携わっている業務・状況



ボーリング調査

私は現在、地質調査業務に携わっています。具体的には、現況地盤等を試掘し地質状況や地層境界の深度を調査するボーリング調査、調査地付近の地形状況及び岩盤の分布状況を把握する地表踏査、道路上で試掘を行い、現況舗装や路床状況から舗装構成を検討するCBR調査、工事によって周辺の沢水等の水量・水質変化等の影響を評価する水文調査を行っています。

地質調査の内、最も多く携わっている業務は、計画される構造物基礎部の調査です。構造物基礎部付近の地盤特性を把握し、地盤定数の設定及び設計・施工上の留意点を提案します。この地質調査結果に基づき設計・施工を進めてい

くため、地質調査は責任重大で、非常に重要な役割を担っていると思います。



地表踏査

この業界を選んだ理由

私は、学生の頃から自然や地理に関する分野(大学時代は環境・土木系の分野を専攻)に興味があり、それらが活かせる業界を探したところ、建設コンサルタント業界にたどりつき、当社へ入社することができました。

また、地元から通勤できる範囲で就職したかったことも理由の一つです。

未来の技術者へのメッセージ

私は入社8年目となりますが、経歴は6年間河川・砂防に関する設計を行い、7年目から地質調査に携わり現在に至っています。まだ経験は1年半ですが、これまでの経験から判断すると、地質調査業務は自分自身が学んできたことが活かせると思っています。

このように部署異動を会社で配慮して頂けたことが、自分の特性を活かすことができるものと感じています。自分が学んできた事や興味のある分野に進んだ方が、業務の習得や早期の技術力向上につながり、業界及び会社に貢献できると思います。



勤務状況



自己紹介

熊崎 吉紘 (入社7年目)
株式会社トライ
地理空間情報部 測量課

入社後、現地作業を中心に道路や河川、山林、農地の測量を行い、入社5年目からは現場代理人を努めることもあり、責任感を感じながらやっています。

今後、レーザードローンを用いた測量で現場作業の効率化を図るために必要な事を学び進歩していきたいです。

現場での私の役割

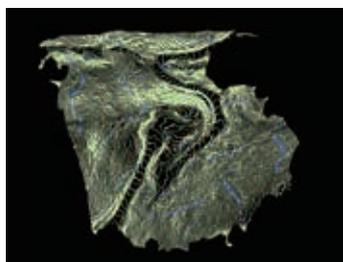
現場では測量作業、安全や工程の管理、業務を円滑に進めるための考案もしています。内業ではCADでの図面作成や点群解析といった図面の作成に取り組んでいます。

測量業を選んだ理由

私は、自然の景観や、外での暮らしが好きで、その中でも何かを作るという作業に熱中してきました。その関連から、現場での測量作業を行い図面の作成をすることに魅力を感じ、測量業を選びました。



レーザードローンでの航空測量
点群データの取得により、3次元地形図や平面図、縦横断面図の作成を行う。



レーザードローンにより取得した
等高線図



TSによる観測作業状況
距離や角度測定及び点群データの取得

未来をつくる若手技術者の皆様へ

よく耳にするのが現場作業は「危険、きつい、汚い」等ありますが適切な安全対策を学ぶことや充実した制度も多くあり、女性でも働ける環境になっています。また、測量業は現地状況を図面化することを目的としているため建設業のように最終成果を確認することはできませんが、道路や建物、施設の建設工事の初期工程で測量が基礎となるのでやりがいを感じ、達成感を得られます。多くの最新技術を駆使して、若手たちで測量業を盛り上げていきましょう。



自己紹介

佐々木 奏穂
(入社6年目)
(株) テイコク
社会システムセンター
まちづくり推進部
入社後は、建築課に配属され、主に公共建築物の建築設計に携わっています。

業務にての自分の立ち位置

設計コンサルタントとして、業務内容の検討から基本検討及び基本計画、実際の図面作成、場合によっては現場監理までを行っています。

頑張っている点や苦勞している点について

建物を建てるには毎回敷地や予算が異なり、同じ条件の建物はありません。地域ごとに様々な基準があるため、それらに適合するように計画する点で苦勞しています。

デザインには、正解がないため計画を複数案検討し、よりよい建物となるように努めています。

業務でのやりがいについて

自分で考えて描いた設計図が、形になるのが一番のやりがいです。また、さまざまな苦勞を乗り越えて建物が完成した時の達成感はとても大きく、その建物を利用する人と完成したよるこびをかち合えることも、「この仕事をしてよかった」というやりがいにつながります。

この業界を選んだ理由

小さい頃から建物が好きで、旅行先で有名な建築物を見て回ったり、建築書籍を読んだりすること、またデザインに興味があり、自分でデザインすることやものづくりが好きだったため、この業界を選びました。

未来の技術者へのメッセージ

この仕事は、自分で書いた設計図が実際に建てられるのを見ることができるとてもやりがいのある仕事です。女性技術者も年々増えていますし、制度や環境も整備されてきています。少しでも建設コンサルタント業に興味を持っていただければ幸いです。



業務風景



自己紹介

高田 彬宏

(入社1年目)

(株)メイホーエンジニアリング
コンサルタント事業部
技術部 設計3課

【趣味、特技】

趣味：トランプ

特技：和太鼓

業務にての自分の立ち位置

管理技術者や先輩の指導の下、現地調査資料・設計図面・数量計算書の作成補助を行っています。

頑張っている点や苦労している点について

業務に対する理解不足や作業効率が悪いと、余分な時間がかかってしまうことがあります。そのため、少しでも業務が円滑に進むように、計画を立ててから作業をするよう心掛けています。

業務でのやりがいについて

業務を実施するにあたり、自ら考えて工夫をすることです。まだ業務に携わった回数は少ないですが、今後携わる業務においては、ストーリー性を意識して、計画的に業務を遂行したいと考えております。

この業界を選んだ理由

私は高校まで建築分野を専攻していました。しかし、建築分野は建物を利用する人を支える仕事であることに気づき、建設分野は大規模で人の暮らしを支える仕事だということを知り、地域住民を支えるやりがいがある仕事であることに関心を持ちました。

未来の技術者へのメッセージ

現在、日本は若手の技術者が少ないといわれています。そのため、若い力を生かして人の暮らしを豊かにする仕事をしましょう。そして、次の世代が活躍できるような環境を築き上げていきましょう。



河道掘削の計画をしている現場状況



自己紹介

二宮 真帆

(入社16年目)

(株)朝日土質設計コンサルタント

災害復旧業務の他、普段は、道路や橋梁などの維持管理に関する業務に携わっています。

携わっている業務の概要

私たちが暮らす岐阜県には、山や河川が多くあります。近年、多発している豪雨によって、毎年さまざまな場所で災害が発生しています。私は、それらの被災した箇所を調査し、復旧するための計画を立てる業務を行っています。

・業務での自分の立ち位置

現場では、被災の状況に応じた復旧計画を立てるため、現地の調査・測量を行っています。それらの結果を基に、構造物の設計を行います。

・苦労している点

被災箇所は早期に復旧が必要なため、被災現場の調査を一早く始めなければなりません。しかし、河川などは増水が続いたりするなどの危険が多くあるため、常に緊張感をもって安全管理をしなければなりません。

・業務でのやりがい

危険が多い現場ではありますが、自分の仕事が、被災した地域の方々の環境や生活が元に戻るお手伝いになっていると考えると、この仕事にやりがいを感じます。

この業界を選んだ理由

街には道路や橋など多くの構造物があふれ、私たちの暮らしを支えています。私は、それらを作る仕事を通してより良い街づくりをしていきたいと思い、この業界に就きました。



河川の増水によって河床が洗掘され、護岸が崩壊した現場。私達は、復旧するための災害調査を行っています。

未来の技術者へのメッセージ

自分が関わって出来上がった構造物が、多くの人に利用され皆の暮らしを支えていきます。仕事を通して街づくりの一端を担っていると感じられる、とてもやりがいのある仕事です。身のまわりにある構造物を通して、この業界に興味を持っていただけたら嬉しいです。



自己紹介

堀 五月

(入社8年目)

(株)相和コンサルタント

趣味は旅行ですがコロナ禍でなかなか出かけられないので、旅計画を立てることで気を紛らわせています。

業務にての自分の立ち位置

設計がスムーズに行えるようにサポートしています。

頑張っている点や苦勞している点について

二次元の図面を頭の中で立体的に捉えることに苦戦することがあります。三次元CADの扱いもまだまだですが、即戦力となるように努めたいです。

業務でのやりがいについて

二次元だった図面が、施工されて道路や構造物となったとき。先進的な技術を目にしたり使ったり、新しい発見があることは楽しいです。

この業界を選んだ理由

以前より二次元CADを使ってきたので、生かせる仕事があったこと、社会、地域への貢献度が非常に高いので、自分もそれに関わればと思いました。

未来の技術者へのメッセージ

3Kのイメージが強い業界ですが、技術も進んで働きやすい環境になってきていると感じます。ひとつの現場をやり遂げた時の大きな達成感を感じてほしいです。



平湯にて、災害被災状況



自己紹介

安田 智宏

(入社7年目)

(株)三進

所属：技術2部

担当業務：道路設計

業務にての自分の立ち位置

私は主担当技術者として主に道路設計業務に従事しています。業務目的に沿った道路計画を立案するため、役所担当者と綿密にやり取りをして計画のコントロールポイントを確認していき方針を決定します。また、今まで培った経験や技術を生かすことやこれからも研鑽していくという意識を持って業務に取り組んでいます。

頑張っている点や苦勞している点について

私は主に道路設計業務に関わっています。安全な道路計画を立案するために基準に従いつつ利用する人のことも考えて設計方針を立てています。業務を進める過程で道路設計は多くの関係機関との協議を経て計画を決定していきます。協議では各立場からの意見・要望があり、これらを考慮した計画にする必要があります。この意見・要望を満足する道路計画を導き出していけるように先輩や上司からアドバイスを受けてつづいて試行錯誤しています。

業務でのやりがいについて

道路は人々の生活を支えるうえでも最も身近であり必要不可欠な存在です。私は安心・安全に利用してもらえるような道路設計を行い、その道路が施工され完成した時の達成感や供用後多くの人に利用してもらえるという喜びにやりがいを感じています。

この業界を選んだ理由

学生時代に建設業に関する知識を学び、建設業に興味を持ちました。建設コンサルタントは施工に必要な図面等を作成する仕事であり、普段私たちの生活を支えている道路等のインフラ整備の根本であると知り、魅力を感じました。社会インフラの設計を通して社会に貢献したいと思い、建設コンサルタントを選択しました。

未来の技術者へのメッセージ

測量・設計業務は、私たちの生活を支えるうえで無くてはならない仕事です。自然災害による復旧対応など大変なこともあります。それ以上にやりがいや達成感が多い仕事だと感じています。ぜひ、一緒に切磋琢磨しながら人々の暮らしを支える一員となり、この業界を活気づけていきましょう。



勤務状況

災害ボランティアから災害廃棄物の専門家に

株式会社興栄コンサルタント 豊田 崇文

2022年3月で東日本大震災から11年が経ちました。

震災があった日は、会社で異様に長い横揺れを感じ、親類のいる東北で大きな地震が起きたことに不安を抱えたまま娘を幼稚園へ迎えに行きました。帰宅してテレビをつけると、どす黒い津波が押し寄せる映像が繰り返されるのを、現実の事と思えず呆然と見ていました。

被災地にできることはないかと仲間とともに、被災直後はアウトドア義援隊が行った物資支援に協力していましたが、より直接的な支援をしたいという思いから、物流が回復しだした2011年5月に気仙沼へ行くことになりました。岐阜と白川郷から約30名がハイエースとマイクロバスに便乗し金曜日の夕方に出発。翌朝に気仙沼の唐桑半島に入って2日間ボランティアを行い、夜通し走り月曜日の朝に帰宅するという週末ボランティアの強行スケジュールでした。

私も交代でマイクロバスを運転しましたが、新潟から福島に入り被災地に近づくにつれて路面の亀裂・段差が増え、震災被害の大きさを感じていました。その中で、津波被害を受け海まで見渡す限り瓦礫の山となった気仙沼市鹿折を見たときの衝撃は生涯忘れることがないと思います。

被災地では、RQ市民災害救援センターの唐桑ボランティアセンターに入り、津波に襲われた集落の中で2軒だけ残った家屋の片付けや、海岸漂着物の撤去をさせていただき傍ら、地元の方から震災当日のお話を伺うことができました。5月以降は個人的に同行者を募り、10月まで月1回程度気仙沼へボランティアに行き、被災と復興の過程を知る経験をさせていただきました。

その後、台風により洪水の発生した三重県紀宝町や栃木県鹿沼市で、浸水被害を受けた家屋の片付けなどのお手伝いをさせていただきました。ここでは、社会福祉協議会の運営するボランティアセンターに登録し活動させていただきました。

これらのボランティア活動を通じて、地震・津波・水害等災害の種類により発生する被害が異なること、災害廃棄物の種類

や発生時期も大きく異なることを知ることができました。

本職である廃棄物のコンサルタントとして、市町村の策定する「災害廃棄物処理計画」の策定支援を行ってききましたが、ボランティア活動での経験を活かして、具体的な仮置き場の設定方法や、ボランティアセンターでの分別品目の案内、運営体制の必要性など、被災時に市町村担当者が使える計画ができるよう支援を行ってききました。こうした中で発生した平成30年7月の西



2011年5月気仙沼市大沢地区



2011年7月気仙沼市鹿折地区



2015年9月栃木県鹿沼市

日本豪雨災害では、廃棄物の専門家として被災翌日から関市の災害廃棄物処理の支援を行いました。

ここでの衝撃は、「分別する意識がない」「分別品目の看板だけでは効果がない」ということでした。また、多くの便乗ごみや金属窃盗など、災害に乗じた悪質な行為も多く見られました。

平常時ではない災害時だからこそ、伝えることの難しさと重要性を認識した経験となりました。

東日本大震災でのボランティアを契機に、他の人よりも少しだけ多く被災地を知る専門家として、災害廃棄物の処理に関わらせていただいています。

災害は、いつ・どこで起きるかわかりません。被災した時に起きる混乱を少なくするため、これからも専門家として市町村と連携した支援を行っていききたいと思います。



2018年7月関市富野地区（分別されていないごみの山）

ごみは分別してから車に積んで仮置場に持ち込んでください。

分別していないごみが山積みになると、搬出が遅れて腐り、被災地の衛生環境が悪化します。

★分別品目★

- ・可燃ごみ（布団、畳、木質、プラスチック、その他可燃）
- ・金属類
- ・家電製品
- ・コンクリート、陶磁器、ガラス
- ・危険物（灯油、プロパンボンベ、カセットボンベなど）
- ・土砂

※水没していないごみは持ち込まないでください。

1日も早いごみの処理が復旧に繋がります。多くの支援と協力をお願いします。

私の好きなお相撲さん

大高理工株式会社 林 秀典

丸い土俵の中央に、まげにまわし姿の巨漢力士が対峙し、ぶつかり合って相手を土俵に投げ飛ばすか、土俵の外に押し出すかで勝負が決まる（説明が大雑把でごめんなさい）、その間、一瞬から数十秒。これが日本の伝統的な格闘技、神事で国技の大相撲である。

15日制の本場所が年6回行われ、関取と呼ばれる上位の力士の全ての取り組みは、TVの地上波で中継される国民的イベントでもある。

私が一番好きな力士は、第55代横綱 北の湖である。歴代1位の21歳2か月のスピード出世で横綱に昇進し、優勝24回（歴代5位）を誇る大横綱で、全盛期は「憎たらしいほど強い」と言われ、「どうせ勝つから」と横綱でありながら懸賞の数が少なく、北の湖が負けると勝った相手に拍手喝さいが鳴りやまなかった。

当時としては体も大きく、非常にスピードがあり、器用さも兼ね備え、その相撲には独特の躍動感があった。しかしながら、せっかちな性格で勝負を急ぐところがあり、土俵際でバタつくことが多かった。

立ち合いまでの所作が速く、相手の所作が遅いといらだちの表情を見せ、立合いまでの動作が遅い朝潮を特に苦手としていた。

優勝決定戦に弱く、本割り・決定戦と連敗した初めての力士となった。まず負けなだろうと思われた相手でも勝てず、優勝決定戦では初回から4連敗している。

恵まれた体を生かし、どっしり構えていれば負けることがない大横綱なのに、なぜかテレビの前ではいつもハラハラドキドキして応援していた。

器具を使って作った筋肉は堅くてけがが多いと稽古は土俵の中だけ、それ以外だとシコとテッポウだけとしていたようだ。北の湖の後に出てきた千代の富士や隆の里がウエイトトレーニングを積極的に取り入れて横綱になったのとは対照的だった。

土俵生命の危機となる膝の大怪我をしても、わざ

と怪我したほうの膝に負荷を掛けたという。昼は病院で治療を受け、夜は自重を利用して自転車に乗って一気に坂を上るなどのリハビリを行うことが多かったそうだ。

もし、北の湖の性格がせっかちでなかったら、もし、現在のような科学的トレーニング方法をもっと早く取り入れていたなら、お酒をもう少し控え得ていたら、優勝回数は30回を超えていただろう。でも、せっかちな大横綱だから今でも一番好きなお相撲さんなのである。

最近大相撲を見ていて感じることもある。

トレーニング方法は、北の湖の時代とは大きく進歩しているようで、その様子は若い親方の話を聞くとよく分かる。しかしながら休場を良しとしない考えから、怪我しても無理して出場して悪化させるケースが後を絶たない。「土俵の上の怪我は土俵で治す」ことは素人の私には無茶としか映らない。今はほとんどの力士はどこかにサポータをしている。

無理に体を大きくする力士は、短命である。北の湖は62才で亡くなった。千代の富士61才、隆の里59才、早逝の力士は枚挙に遑がない。あれだけ体を鍛え激しい相撲を取ってきたお相撲さんも病魔には勝てない。

だから協会全体で最先端のトレーニングやリハビリを含めた健康管理体制を構築してもらいたい。でないと、お相撲さんになる若者がいなくなってしまう。

最後に、岐阜県出身の横綱は過去1名。第13代横綱 鬼面山 谷五郎（きめんざん たにごろう）で、美濃国鷺巣村（現・養老郡養老町）出身。43才で明治最初の横綱となった。

令和の時代に岐阜県出身の横綱の誕生を待ち望んでいる。そうなれば毎場所、15日間、全力で応援したい。

安納芋の栽培・収穫

株式会社中日コンサルタント 宮本 登

自宅の前を走る歩道と、その向こうにある校内の空き地とを隔てるフェンスに耕作者募集の看板がぶら下がっているのを発見したのは丁度20年前の春でした。

空き地は茫々として雑草が生い茂り、梅雨から初夏ともなればヤブ蚊や害虫の大量発生源となるため、近隣の人家では何とかならないものかと悩みの種でしたが、子や孫などが何かとお世話になっている場所が場所だけに、なかなかおいそれと苦情など持って行き難い事情もありました。

看板をよく見ると「無料で空き地を貸し出すので、野菜の栽培をとおして除草等、環境整備に努め、生徒の勤労生産体験・実習等の指導・助言をして貰いたい」といった趣旨の説明があります。要するに、生徒の体験学習への応援を条件に“空き地を耕作して荒地の管理を行わないか！”とのお誘いです。

自慢ではないのですが、種を鉢に押し込み、ろくに水遣りもせず放りっぱなしにしても、けなげにも咲いてくれた朝顔の花を“よくやった”と愛でた経験はありますが、口に入る食物を我が手で直に栽培し、収穫して食すなどといった大それた経験は一度もありません。

サラリーマンの家に生まれサラリーマンを生業としてきた身ですから致し方ないとしても、農業分野に実体験として一度は参画して、農産物の栽培・収穫を試みるのも悪くはないでしょう。

ましてや、ヤブ蚊がいなくなるのなら一石二鳥です。このチャンスを逃がすことは無いと思い、早速、応募に応じた処、運よく空き地の一角を畑として借りることに成功しました。

素人は勿論、誰が手掛けても失敗がないと云うキュウリ・トマト・ナスビといった手頃な作物を手始めに、種々の品種の栽培を手掛けてみました。

最初の数年こそ“これはこれは！”とばかり、我ながら驚くような立派な出来映えの果実を収穫することができて、“お百姓さん何するものぞ！”とウソブイてはみたものの、数年も経たないうちに連作が原因でしょうか？カラスも突っついてくれない貧弱な成果しか得られない時期が続くようになりました。

土壌改良を目指して石灰を蒔くなど、あれこれ試してみたものの、なかなかこー発という効果がなく悶々としていた矢先、見るにみかねてか、畑の仲間から起死回生のお声が掛かりました。“芋の栽培なら素人でも大丈夫！やたらに水や肥料を遣ると却って良くない。苗を植えれば勝手に成長して実が成る。元々芋は米のできない痩せた土地でスクスク

と育つもの。放っておけば良いのでお前さんに丁度良い”誠に心強い励ましを支援に、サツマ芋の栽培を始めることにしました。

近くのスーパーでサツマ芋の一種である安納芋の苗を買い求めたのは、隣接する畝のタマネギが収穫を待つばかりの5月初旬の頃でした。

ものの本によると、安納芋は第二次世界大戦終了後に日本の兵士がスマトラ島から持ち帰った一個を種子島の安納で栽培を始めたのが最初とされています。以前、家族連れでインドネシアに住んだこともあり、何かのご縁と30株の苗を入手しました。5ヶ月後、期待に違わず、夏の太陽と慈雨との恩恵を十二分に受けた苗はグングンとつるを伸ばし、勢い余って駐車場アスファルトの一面を占拠するまでに育ってくれました。

早速、孫娘とその友達を誘って芋掘り会を開催した後、余剰分をご近所の奥様方にプレゼントした処、近頃の天候不順で野菜等の食料品が高騰している事情もあってでしょうか、過分のお世辞も頂戴することができました。

安納芋はその濃厚な甘さととろける様な舌触りで、数あるサツマイモの中でも味に評判の品種であると云われています。また食物繊維やビタミンも豊富で、腸内環境も整うとあって、便秘に悩む方々にはお勧めで殊に女性には好評の食品です。

間違いなくこれからの夏場の定番作物になるでしょう。



植え付け直後の苗



勢いよく伸びたつる



収穫

ポーランドカヌー選手の事前合宿地 (恵那市笠置峡)

有限会社大矢コンサルタント 技術部 田口 泰也

ポーランド共和国のカヌーチームが、東京2020オリンピックに向け、弊社の地元恵那市の笠置峡で事前キャンプを行った。恵那市と協力し、私は主任技術者として誘致から整備まで大きく3つの業務に携わった。

1. 誘致のためのPR資料の作成
2. 練習施設の整備（出艇場所、コース）
3. 練習期間の安全管理（出水の監視）

1. 誘致のためのPR資料の作成

2018年、ブルガリアで開催されたカヌー世界選手権大会会場において、恵那市の笠置峡をポート練習場として宣伝するためにブースが設けられた。恵那市は職員を派遣し、このブースで恵那市及び笠置峡を大々的にPRする事になった。最初の業務は、ブースへ選手や関係者を呼び込むため、PR資料を如何するかが主要なテーマであった。

【ポスター制作】

まずは世界に向けて恵那の伝えたい点を「清流」と「自然美」に絞り、訴求ポイントとした。海外の人々が見たときに「ここに行ってみたい！」と思わせるビジュアル、同時に選手や関係者に「こんなところでカヌーを漕ぎたい！」と目を引いてもらえることを意識した。海外なので大形パネルや重量物は持ち込めない。そこで、大型ポスターは笠置峡の写真を布製の生地印刷し「掛け軸風」(A-1版)に仕上げた。



写真：笠置峡ポスター

【フライヤー制作】

ウェブサイトへの誘導ツールとして、裏面にQRコードをレイアウトし、手に取って持ち帰りたくなるようなワクワクする感じを表現したインパクトのあるデザインにこだわった。

写真：フライヤー



(表面)

(裏面)

【PR動画製作】

恵那市・笠置峡を宣伝する動画を制作しメインのPR資料とした。動画を取めたDVDを現地で配布し、何処の国からでも恵那市のホームページにアクセスし、閲覧出来るようにした。

動画の前半を恵那市の紹介、後半をコースの紹介に配分、コースの紹介ではドローンで木曾川水面をコースに沿って撮影し、実際にボートを漕いでいるような体験が出来る映像を制作した。選手の視点に近づくことで「ここで練習したい！」という気持ちを高めてもらえることを意識した。

(PR動画は弊社HP「3Dプレゼンテーション 笠置峡プロジェクト」掲載中)



写真：PR動画キャプチャー

全てにおいて「No Wind」「No Wave」「No Bride Piers」を共通にアピールし、笠置峡が、ボート・カヌーのスプリント競技に適している場所であることをPRした。

2. 練習施設の整備（出艇場所、コース）

ポーランドの滞在及び練習期間が梅雨の末期の7月18日(日)～31日(土)であり、洪水出水期に当たる。そのため木曾川が増水する際(予想される際)には撤去する必要があり、短時間で撤去可能な施設にする必要があった。

撤去しやすい構造を考えた際、水上での作業を減らすことが撤去作業の時間短縮、撤去のし易さに繋がると考え、コースの係留方法はアンカー式ではなく、地上構造物(2tの根固めブロック)にする方法とした。



写真：浮棧橋



写真：コース



写真：係留用根固めブロック

3. 練習期間の安全管理（出水の監視）

運用マニュアルを作成するに当たり、利用者・撤去業者の安全を守ることが大前提である。そこで過去5年の雨量(木曾川沿い 恵那～御嶽山)、各観測所の水位、牧尾ダムの放流量を確認し撤去する基準を設定した。また撤去作業にかかる時間については、実績がなく雲をつかむような話の為、川辺町の協力を得て川辺漕艇場のコース設置撤去のタイムテーブルを参考とし作業時間を設定した。作業時間+準備時間を撤去に必要な時間に設定し、その時間が確保できる観測所(長野県 桃山観測所)の水位を撤去基準に設定した。

ポーランドチームの滞在期間中は作成したマニュアルに基づき、8時から17時まで30分毎に上記データを確認し、増水の兆候がないか監視を行った。

今回の業務は内容も特殊だったため、とても貴重な経験をさせて頂いた。練習中の出水監視は毎日が緊張の連続であり、社員全員が交替で休日も対応した。結局、天候に恵まれたおかげで心配も杞憂に終わり無事に終了してホットした。練習後、浮き棧橋やコース施設は直ちに撤去されたので8月13・14日の豪雨災害では何事もなかった。

オリンピックではポーランド選手団は大活躍し、銀メダル×1、銅メダル×1を獲得した。微力ながらメダル獲得に貢献できたのではなかといい、且つ業務に携われたことを嬉しく思う。また、これを機に日本のみならず、世界中から水上スポーツまち「恵那市」としてのさらなる発展を期待したい。

御朱印集め

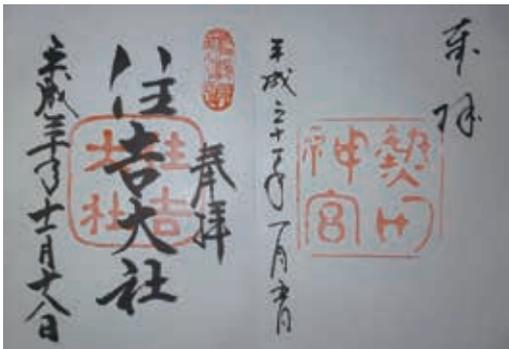
有限会社斐太プランニング 都竹 貴志

私は今年43歳になりますが、40歳手前で何故か神社仏閣巡り（パワースポット？）に興味を持ち初め、そこで初めて御朱印というものの存在を知りました。

最初は特に信心深いわけでもなかった私にとってはそんなものがあつたんだという程度。そこで何となく購入した御朱印帳に御朱印をいただく。収集癖のある私にとって集め始めるともつと集めたいという衝動に駆られる。各地へ観光する足掛かりにも。

御朱印を集めるきっかけは、そんなところである。動機が不純すぎて、罰当たりと言われそうですが。

集めてみると、荘厳なものからデザイン性に凝ったもの、至ってシンプルなもの、バリエーションに富んだもの、特定の日に限定のものなど、様々な御朱印がある。これはもうスタンプラリーじゃないかというような物まである。



ところで、この御朱印一体いつごろからあるのだろうかという疑問を抱いた。何処でどの様にして考案されたのか。気になった私は少し調べてみた。

神社本庁のホームページにそれらしいことについての記載がある。

神社参拝した証として戴く「御朱印」。

その起源は、奈良・平安の昔。神社仏閣に書写した経典を奉納した際に戴いた「納経(のうきょう)受取の書付」ではないかといわれています。

「神社へ経典を奉納したの？」

と思われる方もあるかも知れませんが、こうした例の代表に「平家納経」があります。これは時の天下人・平清盛が神仏習合思想の影響をうけ、「厳島神社の御祭神は、十一面観音がお姿をお変えになったもの」と解釈して奉納したものといわれています。

こうした納経は徐々に一般にも広がり、社寺から「納経受取の書付」を戴いていたことが、やがて納経をせず参拝のみをした場合にも証明を書いてもらうというように変化していったものと考えられています。

鉄道網が整備された明治以降には、巡拝旅行と集印が盛んに行われるようになりました。それに伴って、案内本や旅行記といった書物も出版されるようになり、昭和10年頃から「御朱印」という呼称が見られるようになります。

調べてみたが、はっきりとしたことはわからない。結局のところ、かなり昔からあるのは間違いないことはわかる。まあ、これでよしとしておこうと思う。

しかし、このコロナ禍の影響で外出自粛、県をまたぐ移動を自粛、どこにも行けない。こればかりはどうしようもない。

また、コロナ禍の影響が無くなったところで御朱印集め、パワースポット巡りに出かけたいと思っています。





野生イノシシへの経口ワクチン 野外散布の実施について

災害対策委員会

1. 背景及び散布目的

県内では、平成30年9月に岐阜市の養豚場において、国内26年ぶりとなる「豚熱（CSF）が確認され、大量の豚が殺処分されました。そのため、岐阜県では、全力で豚熱の発生予防やまん延防止の取り組みが行われてきました。

→当時の県内では、感染した野生いのししが大量に確認されていました。感染拡大の一因となっている野生いのししによるウィルス拡散を食い止めるためには、野生いのししに抗体を付与させることが必要なため、県内では経口ワクチン散布作業が行われることとなりました。

平成31年4月早々に岐阜県農政部より、この作業を当協会に実施して欲しいとの依頼があり、当協会が受託することとなりました。

作業開始にあたっては、（野生動物保護管理事務所（WMO）の指導のもと経口ワクチン野外散布説明会を数回に亘り開催し、作業マニュアルを習得し作業にあたりました。

2. 野外散布の概要

協会では岐阜県全域を対象に、これまで令和元年度は5回、令和2年度は5回の経口ワクチン散布を実施しており、令和3年度も前期分2回の散布を実施しました。

今年度後期散布については、散布方法の大幅な見直しを図ったうえで、従前からの回収作業と併せ、（一社）岐阜県猟友会が一括して実施しています。（表-1参照）

（表-1）野外散布実施状況

期別	作業日	作業内容	作業班数	作業人数
前期1回目	5月11日～15日	散布	123	246
前期2回目	6月22日～26日	散布	123	246
後期1回目	9月15日～19日 （県北部）	散布	岐阜県猟友会が散布を実施	
	10月27日～31日 （県南部）	散布		
後期2回目	10月27日～31日 （県北部）	散布		
	1月19日～23日 （県南部）	散布		

3. 岐阜県内の野生いのししにおける豚熱の最近の情勢等について

これまでのワクチン散布・回収業務を経て、岐阜県内の野生いのししにおける豚熱の最近の情勢は以下のとおりです。

（1）感染率について

感染率は、平成31年4月では77.8%でしたが、順次低下し、令和2年7月以降は1%前後の状態が続いています。

（2）抗体獲得率について

抗体獲得率は、平成31年4月時点で3.8%でしたが、令和2年6月に71.5%となった後は低下傾向にあり、令和3年6月では45.9%でした。

（3）感受性個体率について

感受性個体率は、平成31年4月時点で19.2%でしたが、令和2年10月に73.7%となった後、令和3年6月では53.2%でした。

4. 今後の予定

経口ワクチンの使用事例がある欧州のECガイドラインでは、抗体率が40%で豚熱ウィルス拡散が抑えられ、60%で撲滅に向かうとされています。県内の野生いのししにおける最近の抗体獲得率は、60%を下回る状態が続いているため、引き続き県内における経口ワクチン散布を継続するとともに、より野生いのししに効果的に経口ワクチンを摂食させる方法を検討し、実践していく予定とのことです。

また、令和4年度における具体的な経口ワクチンの散布予定は、国等の関係者と連携して検討中であるとのことです。

※3・4は、岐阜県家畜伝染病対策課野生いのしし対策室からの情報（R4.1月時点）



総務広報委員会

定時社員総会

第48回定時社員総会を開催し、令和2年度事業報告並びに収支決算、令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について原案とあり承認されました。開催にあたり来賓として岐阜県議会議員の猫田孝様と岐阜県県土整備部長の船坂徳彦様をお迎えする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、お招きすることを取りやめました。

- 日 時 令和3年4月27日（火）15時～
場 所 ホテルグランヴェール岐山
議 事 第1号議案 令和2年度事業報告並びに収支決算について
第2号議案 令和3年度事業計画（案）について
第3号議案 令和3年度収支予算（案）について



全員協議会

会員41名が出席し、「ホテルグランヴェール岐山」において、全員協議会を開催し、「県幹部との意見交換会の結果」及び「各委員会活動」を報告しました。

講演では、岐阜県 県土整備部土木技監 野崎様より「県 公共事業における最近の話題」について、また組織活性化コンサルタント and my... 代表 前川由希子様より「心理的安定性の高いチームの作り方」題しご講演をいただきました。

- 日 時 令和3年11月30日（火）13時30分～
場 所 ホテルグランヴェール岐山
内 容 1. 県幹部との意見交換会の結果
2. 各委員会活動報告
3. その他
出席者 41名



委員会活動だより

発注機関への要望活動

国土交通省の各事務所及び県庁（県土整備部、都市建築部、農政部、林政部）、土木事務所、農林事務所に対して、ご挨拶と日頃のお礼を兼ね、協会が抱えている諸課題について、要望活動を行いました。

日時 令和3年5月31日（月）県庁（県土整備部、都市建築部、農政部）、岐阜地区（3機関）
6月2日（水）県庁（林政部）
岐阜地区（1機関）
西濃地区（5機関）
6月3日（木）東濃地区（6機関）
6月4日（金）中濃地区（6機関）
飛騨地区（6機関）
6月9日（水）神通川水系砂防事務所

計32機関

出席者 浅野会長、市橋副会長、辻副会長他、各地区理事で分担して実施



県幹部との意見交換会

岐阜県県土整備部、都市建築部、農政部、林政部4部の県幹部をお迎えし、協会が抱えている諸課題について、活発な意見交換会を開催しました。

日時 令和3年11月4日（木）13時30分～
場所 ハートフルスクエア-G 2階 大研修室
テーマ (1) 建設関連事業費の長期安定的な確保について
(2) アフターコロナを見据えた新しい働き方について
(3) 適正な業務単価の設定について
(4) 災害対応に向けた環境整備について

出席者

(県側)

県土整備部 西次長、飯島建設政策課長、広瀬技術検査課長 他

都市建築部 朝倉次長、水野都市公園整備局副局長、幸畑都市政策課長 他

農政部 深谷農業技監、若山農地整備課長、下里農地整備課農地防災対策室長 他

林政部 平井次長、田中森林整備課長、安達治山課長 他

(協会側)

浅野会長、市橋副会長、辻副会長、吉田総務広報委員長、山本法令遵守委員長、村橋災害対策委員長、沖下測量技術委員長、林建コン技術委員長、葦島総務広報副委員長、森災害対策副委員長、力石事務局長



「測量の日」の啓発活動

測量の重要性を理解していただくため、6月3日は「測量の日」と定められています。

このため、5月20日（木）から6月3日（木）に亘り、会員全社及び協会事務所に「のぼり旗」を掲揚し、「測量の日」の啓発活動を実施しました。

法令遵守委員会

法令遵守委員会は、独占禁止法等の法令遵守、倫理の高揚及び受注実態調査、経営者研修会等が担当事業となっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一部事業は中止となりましたが、法令遵守セミナー、受注実態調査を実施しました。

法令遵守セミナー（オンライン開催）

測量設計業の健全な発展及び地位向上を図るため、企業倫理の確立と企業イメージを変革し、魅力ある測量設計業の創設を目指しセミナーを開催しました。



- 日時 令和4年1月21日（金） 13時30分～
場所 ホテルグランヴェール岐山 乗鞍の間（収録）
内容 講演1 1）ぎふの「新しい働き方」
ぎふ働き方改革推進支援センター
社会保険労務士 酒井真由 様
2）コロナ禍における適切な労務管理について
岐阜労働基準監督署
第2方面主任監督官 東 彰子 様
3）働き方改革関連法について
岐阜労働局 雇用環境・均等室
働き方・休み方改善コンサルタント
牟田昂平 様
講演2 花柳界で学んだ福を呼ぶコミュニケーション
随筆家、元新橋 NO.1 芸者 千代里 様
出席者 63名参加

災害対策委員会

本年度から災害対策委員会が設置され、災害時の応援協力を中心に、安全管理・BCP 及び災害関連に係る研修、講習・災害連絡調整会議・野生いのししへの CSF（豚熱）経口ワクチン野外散布業務等が担当事業となっています。

本年度は、新型コロナウイルス対応 BCP 策定支援 WAB 講習会、BCP 訓練及び経口ワクチン野外散布業務等を行いました。

BCP 策定支援セミナー及び BC 演習

自然災害などの緊急事態に遭遇した場合に、事業資産の損害を最小限にとどめ事業の継続や早期復旧ができるよう緊急時における事業継続の方法・手段を取り決めておくことが大切である。

協会では、令和 2 年 4 月に岐阜県建設業広域 BCM の認定を受け、災害時等の事業継続力を高め岐阜県の防災力向上につとめているところです。

会員の BCP に対する理解を深めるとともに、協会の広域 BCM 計画が自然災害等の緊急事態に遭遇した場合に有効に機能するか、事業継続・早期復旧が計画どおりにできるか、課題や改善点を明らかにし、より実効性の高い計画とするためセミナー及び BC 演習を実施しました。

日時 令和 3 年 10 月 28 日（木） 13 時 30 分～

内容 BCP 策定支援セミナー

演題 「近年の気象災害と注意すべき情報」

講師 BCP マネジメントセンター 代表 安藤一男 様

BC 演習

豪雨災害時を想定した模擬演習（ロールプレイング）

出席者 35 社 37 名



測量技術委員会

測量技術委員会では測量に関する研修、技術の向上及び改善に関する調査研究等を進め、技術力向上に努めています。例年は、技術講習会、実務者意見交換会等の事業を進めるとともに用地測量・用地調査研修、県・市町村職員研修、農業土木職員技術研修、工業高校UAV講習及び高校生ものづくりコンテストへ講師派遣を行っています。

今年度は用地測量・用地調査研修、県・市町村建設職員研修を行い、新型コロナウイルスの影響により実務者意見交換会については書面により意見交換を行いました。

用地測量・用地調査研修

岐阜県県土整備部用地課より依頼を受け、用地測量・用地調査研修会に講師を派遣しました。

研修内容は用地事務職員に関する実践的かつ専門的知識の習得に関する講演を行いました。

日時 令和3年8月10日(火) 9時30分～12時00分

場所 中濃総合庁舎 5階会議室

出席者 (県側)

長尾県土整備部用地課指導係長、青山県土整備部用地課指導係長、各用地事務担当者38名
(協会側)

沖下測量技術委員長、今泉測量技術副委員長、尾藤測量技術副委員長、遠藤測量技術委員、長野測量技術委員



県・市町村建設職員研修

(公財)岐阜県建設研究センターより依頼を受け、当委員会より講師を派遣し、測量研修を実施しました。

研修内容は測量の基礎知識・用語の説明、野外実習(レベル・TS・GNSS)。

日時 令和3年10月20日(水)
10時00分～16時00分

場所 福祉農業会館2階 大会議室

講師 今泉測量技術副委員長、尾藤測量技術副委員長、柗測量技術委員、谷口測量技術委員、大岩測量技術委員、桑原測量技術委員、長野測量技術委員



実務者意見交換会(県土整備部・農政部)

測量、設計業務において、発注者及び受注者が抱えている諸問題を整理し、業務の円滑化と高品質な成果品提出を目指し、毎年実務者意見交換会を行なっています。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面にて実施しました。

建コン技術委員会

技術力が尚一層評価されるようになり、技術力の拡充強化を図り、高い技術力を有する技術者の育成・人材確保が重要となっています。

建コン技術委員会では設計に関する研修、講習会、技術の向上及び改善に関する調査研究、指導等を進め、会員の技術力向上に努めています。

本年度は、測量技術委員会・新技術 WG と合同で勉強会を開催。新型コロナウイルス感染症拡大のため、技術講習会（現場見学会）が中止となりました。

また、年度末の3月には事例発表会（オンライン）の開催をしました。

測量・建コン技術委員会、新技術 WG 合同勉強会

日時 令和3年7月13日（火）
場所 岐阜県福祉・農業会館
内容 BIM/CIMの現状について
大日コンサルタント(株) 飯田氏
ICT 建設機械に反映する3Dデータについて
コマツカスタマーサポート(株) 佐藤氏



事例発表会（オンライン開催）

会員各社で日頃から行っている業務改善、新技術への挑戦、人材確保や育成等の取組みについて事例を紹介していただくことにより、i-Construction という時代の大きな転換点に立つ会員が、時代を乗り越え、更なる成長を支援することを目的に事例発表会を開催しました。

日時 令和4年3月10日（木） 13時30分～16時45分
場所 ZOOM によるオンライン開催
内容 1) 働き方改革を踏まえた人材確保・育成の取組事例
2) BIM / CIM × DX
3) 土木デザイン可視化への取組事例
4) BIM / CIM 等の取組事例
5) UAV レーザー・地上レーザーの活用事例
6) 新技術を用いた測量設計業務の取組事例
7) 橋梁点検洗堀調査の試行事例
8) 公共測量における新技術（資料提供のみ）

参加者 118名

事業報告

令和3年度



3

- 3.1 (月) 「測量の日」中部地区協議会 (WEB 開催)
14:30～ 浅野会長参加
- 3.2 (火) 令和2年度岐阜県建設業暴力団追放推進協議会
13:30 総会
(場所: サンレイラ岐阜)
辻副会長出席
- 3.10 (水) 第3回 建コン技術委員会 (WEB 会議)
10:00～
1. 積算を円滑にするための「数量総括表」の作成について
2. その他
- 3.16 (火) 中部地方整備局と各県測協の BIM/CIM に関する意見交換会
14:00～
(場所: 桜華会館 名古屋市)
参加者 大日:飯田氏、大同:土川氏、テイコク:古田氏
- 3.18 (木) 第8回 災害対策委員会
13:30～
(場所: 岐阜県福祉・農業会館 5 南)
1. 令和3年度事業計画について
2. 災害応援連絡調整会議について
3. 令和3年度経口ワクチン散布計画 (案) について
4. その他
- 3.23 (火) 第7回 総務広報委員会
13:30～
(場所: 岐阜県福祉・農業会館 研修室)
1. 令和2年度事業報告並びに決算見込み及び予算流用について
2. 令和2年度経口ワクチン散布、回収業務の決算及び令和3年度経口ワクチン散布計画 (案) について
3. 令和3年度事業計画 (案) について
4. 令和3年度収支予算 (案) について
5. 令和3年度会費及び徴収方法について
6. 第48回定時社員総会について
7. 発注機関への要望活動について
8. 岐阜県総合評価落札方式 (地域型) の対応について
9. 会報誌の配布計画について
10. 協会パンフレットの作成について
11. 次世代経営者 WG について
12. 令和3年度地図教室の参加申込について
13. その他

- 3.26 (金) 第8回正副会長会議
12:00～
(場所: 岐測協事務所)
1. 理事会提案事項の事前審議について
2. その他

- 3.26 (金) 第13回 理事会
13:30～
(場所: OKB ふれあい会館406会議室)
(審議事項)
1. 令和2年度事業報告並びに決算見込み及び予算流用について
2. 令和2年度経口ワクチン散布、回収業務の決算及び令和3年度経口ワクチン散布計画 (案) について
3. 令和3年度事業計画 (案) について
4. 令和3年度収支予算 (案) について
5. 令和3年度会費及び徴収方法について
6. 第48回定時社員総会について
7. 発注機関への要望活動について
8. 要望事項の取り纏めについて
9. 受注実態調査結果について
10. 代表者の変更について
11. 岐阜県総合評価落札方式について
12. 地図教室と測量体験学習の参加申込 (中間) について
13. その他
(報告事項)
1. 各委員会報告
2. 委託事業前払い金について
3. その他 協会活動及び理事会のスケジュールについて

4

- 4.7 (水) 令和2年度会計監査
10:00～
(場所: 岐測協事務所)
1. 令和2年度事業報告について
2. 令和2年度収支決算について
監事: 岩本監事、田原監事
立会: 市橋副会長、吉田総務広報委員長

- 4.9 (金) 第1回理事会 (書面表決)
1. 令和2年度収支決算について
2. 令和3年度収支予算 (案) について

- 4.15 (木) ぎふ人材育成・確保連携協議会監査
14:00～
(場所: 岐測協事務所)
監事 山本法令遵守委員長

4.21 (水) 岐阜県自然共生工法研究会 企画啓発部会
14:00～ (WEB会議)
矢頭建コン技術副委員長 参加
1. 令和2年度企画啓発部会活動報告について
2. 岐阜県自然共生工法研究会20周年記念事業について
3. 令和3年度企画啓発部会事業計画について

4.23 (金) 第1回総務広報委員会 (書面表決)
1. 発注機関への要望(案)について

4.26 (月) 第1回地区協議会代表幹事会議
13:30～ (場所:岐阜県福祉・農業会館2南会議室)
1. 令和3年度前期1回目 経口ワクチン散布の割付について
2. その他

4.27 (火) 第2回理事会
13:00～ (場所:ホテルグランヴェール岐山)
1. 第48回定時社員総会について
2. 発注機関への要望活動について
3. 地図教室と測量体験学習について
4. 令和3年度災害時応援協力本部組織表等について
5. 令和2年度受注状況調査結果について
6. 令和3年度協会活動の概要について
7. 令和2年度経営等に関する実態調査結果について
8. 測量技術委員の辞任及び新委員推薦について
9. 各種協議会などの委員の推薦について
(1) 岐阜県自然工法管理士認定審議会委員の辞任及び新委員の推薦について
(2) 岐阜県道路維持管理に関する検討会委員への就任について
(3) ぎふ人材育成・確保連携協議会の委員について
10. その他
岐阜県 DX 推進計画策定に伴う建設分野における DX についての意見照会
建設政策課 荻田技術総括監 他
(報告事項)
1. 各委員会報告
2. その他 協会活動及び理事会のスケジュールについて

4.27 (火) 第48回定時社員総会
15:00～ (場所:ホテルグランヴェール岐山)
1. 令和2年度事業報告並びに収支決算について
2. 令和3年度事業計画(案)について
3. 令和3年度収支予算(案)について



5.10 (月) 第2回総務広報委員会
14:00～ (場所:岐阜県福祉・農業会館研修室)
1. 令和3年度事業計画及び所要予算額について
2. 令和3年度要望活動について
3. 地図教室について
4. 会報誌の発刊企画及びスケジュールについて

5. 協会 PR パンフレットについて
6. フォトコンテストについて
7. 親睦ソフトボール大会について
8. 次世代経営者 WG について
9. その他
岐阜地区、東濃地区の要望活動の承認について

5.11 (火) 第1回測量技術委員会
13:30～ (場所:岐阜県福祉・農業会館研修室)
1. 委員委嘱
2. 令和3年度事業計画及び予算について
3. 用地事務担当者研修について
4. 実務者意見交換会について
5. 災害復旧業務の調査について
6. 県・市町村技術職員測量研修について
7. 農政部農業土木職員技術研修について
8. その他

5.11 (火) 前期1回目経口ワクチン散布業務
～15 (土) 散布業務123班参加

5.14 (金) 令和3年度災害応援連絡調整会議 (書面開催)

5.14 (金) 第1回正副会長会議
12:00～ (場所:岐測協事務所)
1. 理事会提案事項の事前審査
2. その他

5.14 (金) 第3回理事会
13:30 (場所:岐阜県福祉・農業会館研修室)
(審議事項)
1. 発注機関への要望活動について
2. 地図教室と測量体験学習について
3. 「測量の日」の啓発活動について
4. 災害応援連絡調整会議について
(県土整備部、林政部)
5. その他
(報告事項)
1. 各委員会報告
2. その他
協会活動及び理事会のスケジュールについて

5.19 (水) 中部地区応援協力に関する協定オンライン会議
14:00～
1. 協定に対する各測協の方針
2. 協定の内容について
3. その他
参加者:村橋災害対策委員長、森災害対策副委員長、事務局

5.20 (木) 第1回災害対策委員会
13:30～ (場所:岐阜県福祉・農業会館研修室)
1. 令和3年度事業計画及び予算について
2. 災害応援連絡調整会議(県土整備部)について
3. 災害応援連絡調整会議(林政部)について
4. 令和2年度BCM関係事業について
5. その他

5.25 (火) 第1回建コン技術委員会
13:30～ (場所:OKBふれあい会館401会議室)
1. 令和3年度事業計画及び所要予算について
2. 委員の役割分担について

3. 技術講習会について
4. 実務者意見交換会について
5. 自然共生工法現場見学会について
6. 岐阜社会基盤研究所研究テーマについて
7. 農政部農業土木職員研修について
8. その他

5.26 (水) 社会基盤メンテナンスエキスパート養成ユニット運営協議会及び理事会 (WEB 会議)
10:00~

1. 前回の議事録確認
2. 令和3年度前期 ME 養成講座について
3. 令和3年度後期 ME 養成講座の募集について
4. その他
 - ・インフラミュージアムについて
 - ・CIAM Chronicle 発行について
 - ・ME の会通常総会について

辻副会長、林建コン技術委員長出席

5.31 (月) 要望活動 (県庁・岐阜地区)
木曾上、岐国、県土、都市、農政 (岐阜土木は急遽中止)
出席：浅野会長、市橋副会長、辻副会長、力石



6.2 (水) 要望活動 (県庁・岐阜地区)
午前
岐阜農林、林政部
出席：浅野会長、市橋副会長、辻副会長、力石

6.2 (水) 要望活動 (西濃地区)
午後
越美砂防、揖斐土木、揖斐農林、西濃農林、大垣土木
出席：浅野会長、山本理事、林理事

6.3 (木) 測量の日
(5/22~6/3 岐測協事務所にのぼり旗)

6.3 (木) 要望活動 (東濃地区)
多治見砂防国道、多治見土木、東濃農林、恵那農林、恵那土木、新丸山
出席：辻副会長、村橋理事、矢頭理事、力石

6.3 (木) ぎふ人材育成・確保連携協議会第1回理事会
10:00~
(場所：県庁議会棟会議室・WEB)
1. 役員の改選について
2. 令和2年度自主事業の実績、決算、監査報告等
3. 令和3年度自主事業の事業計画 (案)、予算 (案) 等
出席：市橋副会長、吉田総務広報委員長、山本総務広報副委員長

6.4 (金) 要望活動 (中濃地区)
可茂土木、可茂農林、美濃土木、中濃農林、郡上土木、郡上農林
出席：浅野会長、蓑島理事、力石

6.4 (金) 要望活動 (飛騨地区)
古川土木、高山土木、飛騨農林、高山国道、下呂土木、下呂農林
出席：市橋副会長、吉田理事、沖下理事

6.7 (月) 岐阜県自然工法研究会監査
(場所：岐測協事務所)

6.8 (火) 建コン技術委員会 新技術 WG
13:30~
(場所：岐阜県福祉・農業会館 2 南会議室)
1. 岐阜県社会基盤研究所 研究発表会について
2. 技術講習会・発表会について
3. 岐阜県土木設計業務等品質向上検討会について
4. その他

6.9 (水) 要望活動 (飛騨地区)
神通砂防
出席：沖下理事、岩本地区委員、吉岡地区委員

6.10 (木) ぎふ建設人材育成・確保連携協議会総会
10:30~
(県庁議会棟、オンライン会議)
議事
1. 令和2年度 事業実績及び決算について
2. 令和3年度事業計画及び予算 (案) 等について
3. 役員の選任について

6.14 (月) 第2回 地区協議会代表幹事会議
13:30~
(場所：岐阜県福祉・農業会館 2 南会議室)
1. 令和3年度前期2回目経口ワクチン散布業務の割付について
2. その他

6.15 (火) 岐阜県建設産業団体連合会 理事会
10:30~
(場所：サンレイラ岐阜)
議題
1. 令和2年度事業報告及び収支決算について
2. 令和3年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) について
3. 役員の選任について

6.15 (火) 全測連定時総会
15:00~
(場所：測量年金会館)
議事
1. 令和2年度貸借対照表及び損益計算書の承認について
2. 災害支援金制度規程について
3. 理事の選任について
4. 令和2年度事業報告について
5. その他

6.16 (水) 県土整備部 災害時応援協力に関する連絡調整会議 (書面開催)
林政部 災害時応援協力に関する連絡調整会議 (書面開催)

6.16 (水) 第4回理事会 (書面表決)
1. 令和3年度災害時応援協定に基づく災害応援連絡調整会議資料 (県土整備部) の内容について
2. 令和3年度災害時応援協定に基づく災害応援連絡調整会議資料 (林政部) の内容について

6.16 (水) 「測量の日」地図教室と測量体験学習
【中止】
(場所：川島小学校)
まん延防止等重点措置期間のため中止

6.17 (木) 災害応援協定に関する説明及び意見交換
10:00～
(可茂土木→美濃土木→郡上土木)
出席：村橋災害対策委員長、森副委員長、蓑島理事、鎌倉、力石

6.18 (金) 災害応援協定に関する説明及び意見交換
13:30～
(多治見土木→恵那土木)
出席：村橋災害対策委員長、森副委員長、野田委員、矢頭理事

6.18 (金) 岐阜県自然共生工法研究会 理事会(WEB 会議)
14:00～
1. 令和2年度事業報告について
2. 令和2年度収支決算について
3. 令和3年度事業計画(案)について
4. 令和3年度収支予算(案)について
5. 岐阜県自然共生工法研究会20周年記念事業について
6. 20周年記念事業収支予算(案)について
7. 20周年記念事業 協賛金及び企画広告の募集について
8. 役員の改選(案)について
9. 部会員の交替について
10. 令和3年度 通常総会について
出席：市橋副会長、力石

6.21 (月) 「測量の日」地図教室と測量体験学習
10:45～
(場所：竹鼻小学校)
1. 地図に関する講話 国土地理院中部測量部 志田次長
2. 測量体験学習 西濃地区協議会6社
対象：4年生(4クラス、118名)

6.22 (火) 前期2回目 経口ワクチン散布
～26 (土) 123班 43社参加

6.23 (水) 「測量の日」地図教室と測量体験学習
10:50～
(場所：稲羽西小学校)
1. 地図に関する講話 国土地理院中部測量部 志田次長
2. 測量体験学習 岐阜地区協議会
対象：4年生(2クラス、64名)

6.24 (木) 災害応援協定に関する説明及び意見交換
10:30～
(下呂土木→高山土木→古川土木)
出席：村橋災害対策委員長、森副委員長、沖下理事、力石

6.29 (火) 第3回総務広報委員会
13:30～
(場所：OKB ふれあい会館405会議室)
1. 要望活動の取り纏め及び協会として取り組むべき課題について
2. 県幹部との意見交換会について
3. 全員協議会について
4. 地図教室について
5. 会報誌の発刊企画及びスケジュールについて
6. フォトコンテストについて
7. 協会PRパンフレットについて
8. 親睦ソフトボール大会について
9. 次世代経営者WGについて
10. その他

6.30 (水) 第2回建コン技術委員会
13:30～
(場所：OKB ふれあい会館405会議室)
1. 技術講習会について
2. 農業土木研修会について
3. その他



7.1 (木) 災害応援協定に関する説明及び意見交換
11:00～
(大垣土木→揖斐土木→岐阜土木)
出席：村橋災害対策委員長、森副委員長、林理事、佐竹、林、力石

7.2 (金) 第2回正副会長会議
12:00～
(場所：岐測協事務所)
1. 理事会提案事項の事前審査
2. その他

13:30～ 第5回 理事会
(場所：OKB ふれあい会館401会議室)
(審議事項)
1. 要望結果のとり纏め及び協会として取り組むべき課題について
2. 県幹部との意見交換会について
3. 全員協議会の内容について
4. 親睦ソフトボール大会について
5. 会員の所在地変更届について
(報告事項)
1. 各委員会報告
2. その他
・全測連ホームページの変更について
・協会活動及び理事会のスケジュールについて

15:30～ 第3回 地区協議会代表幹事会議
(場所：OKB ふれあい会館401会議室)
1. 令和2年度事業報告(岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨地区)
2. 令和3年度事業計画(岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨地区)
3. その他

7.8 (木) 次世代経営者WG
13:30～
(場所：岐阜県福祉・農業会館2南会議室)

13:30～ 新技術WG
(場所：岐阜県福祉・農業会館5南会議室)
1. 岐阜社会基盤研究所 研究発表会について
2. 技術講習会について
3. その他

7.13 (火) 測量技術・建コン技術・新技術WG合同会議
13:30～
(場所：岐阜県福祉・農業会館大会議室)
・BIM/CIMの現状について 飯田氏(大日C)
・ICT建機に反映する3Dデータについて コマツカスタマーサポート(株) 佐藤氏
・質疑応答

7.20 (火) 13:30~	第1回法令遵守委員会 (場所: 岐測協事務所) 1. 事業計画及び予算について 2. 法令遵守セミナーについて 3. 経営者研修会について 4. 受注実態調査について 5. その他	発表者: 建コン技術委員会 田島健太 (大日 C) 「BIM/CIM における測量設計の現状と課題」
7.26 (月) 13:30~	総合評価落札方式【地域型 (人材育成)】の意見交換 (場所: 県土整備部会議室) 出席者: 技術検査課 広瀬課長、長瀬技術企画監、中村課長補佐等 協会: 市橋副会長、吉田総務広報委員長、浅野副委員長、力石	
		
8.6 (金) 13:30~	第2回 災害対策委員会 (場所: 岐阜県福祉・農業会館 2 南会議室) 1. 災害応援協定の各事務所説明結果について 2. BC 訓練について 3. BCM 関連事業について 4. その他	
8.10 (火) 10:00~	用地測量・用地調査研修 (場所: 中濃総合庁舎 5 階大会議室) 講師派遣: 沖下測量技術委員長、今泉測量技術副委員長、尾藤測量技術副委員長、遠藤委員、長野委員	
8.11 (水) 14:00~	全測連中部地区協議会監査 (場所: 岐測協事務所) 中部協: 安藤事務局長、大島	
8.17 (火) 10:00~	建設 ICT 人材育成センター 若手・女性技術者との意見交換会 (議会西棟 3 階第 2 会議室) 参加者: 技術検査課、建設業協会、測量設計業協会	
8.18 (水) 10:00~	社会基盤 ME 養成ユニット運営協議会及び幹事会 (場所: 岐阜大学工学部) 出席: 辻副会長、林建コン技術委員長	
8.25 (水) 10:00~	災害応援業務実施に伴う連絡調整 WEB 会議 (8 月豪雨) 1. 災害応援協定に基づく応援要請状況及び実施可能者について 2. その他	
8.25 (水) 14:30~	都市整備協会設立60周年記念式典 (You Tube) 参加: 浅野会長	
		
9.3 (金) 14:00~	岐阜県社会基盤研究所 研究発表会 (WEB 開催) (場所: 岐阜大学サテライトキャンパス)	
9.6 (月) 10:00~	ぎふ人材育成・確保連携協議会 第2回理事会 (場所: 水産会館中会議室、一部 WEB) 1. 令和 3 年度事業の実施状況について 2. 令和 4 年度事業の計画について 3. その他 報告事項	
9.6 (月) 13:30~	第3回 測量技術委員会 用地担当者会議 (場所: 岐測協事務所) 1. 不備案件の内容について 2. 今後の対応及びスケジュールについて 3. その他	
9.10 (金) 13:00~	第2回 法令遵守委員会 (WEB 会議) 1. 受注実態調査結果 (4 月~6 月) について 2. 経営者研修会について 3. 法令遵守セミナーの開催について 4. その他	
9.10 (金) 13:30~	第4回 総務広報委員会 (WEB 会議) 1. 県幹部との意見交換会について 2. 全員協議会の開催計画について 3. 会報誌の発刊について 4. 協会 PR パンフレットについて 5. 次世代経営者 WG について 6. 地図教室について 7. 地域建設業支援事業について 8. その他 ・総合評価落札方式【地域型 (人材育成型)】について	
9.17 (金) 12:00~	第3回 正副会長会議 (場所: 岐測協事務所) 1. 理事会提案事項の事前審議について 2. その他	
13:30~	第6回 理事会 (場所: OKB ふれあい会館403会議室) (審議事項) 1. 県幹部との意見交換会について 2. 全員協議会について 3. 岐阜県自然共生工法研究会20周年記念事業の協賛について 4. 地域建設業支援事業について 5. 受注実態調査結果について 6. 令和 4 年度自民党県当初予算に対する要望について 7. その他 (報告事項) 1. 各委員会報告 2. その他 ・協会活動及び理事会のスケジュールについて	
		
10.12 (火) 13:30~	第4回測量技術委員会 (場所: 岐阜県福祉・農業会館 2 南会議室)	

- 1. 令和3年度事業の実施状況について
 - 2. 令和4年度事業の計画について
 - 3. その他 報告事項
-
- 10.13(水) 全国測量設計業協会連合会 全国会長会議
【中止】 (場所：岩手県)
-
- 10.13(水) 次世代経営者 WG
13:30～ (場所：岐阜県福祉・農業会館2南会議室)
-
- 10.19(火) 第5回 総務広報委員会
13:30～ (場所：岐阜県福祉・農業会館研修室)
- 1. 県幹部との意見交換会について
 - 2. 全員協議会について
 - 3. 経営者研修会について
 - 4. 会報誌の発刊について
 - 5. 次世代経営者 WG について
 - 6. フォトコンテストについて
 - 7. その他
-
- 10.20(水) 県・市町村建設技術職員研修 測量研修
10:00～ (場所：岐阜県福祉・農業会館大会議室)
建設研究センター主催
派遣講師：今泉測量技術副委員長、尾藤測量技術副委員長、柘委員、谷口委員、大岩委員、桑原委員、長野委員
-
- 10.21(木) 第4回 正副会長会議
12:00～ (場所：岐測協事務所)
- 1. 理事会提案事項の事前審議について
 - 2. その他
-
- 13:30～ 第7回 理事会
(場所：岐阜県福祉・農業会館研修室)
(審議事項)
- 1. 県幹部との意見交換会について
 - 2. 全員協議会の開催計画について
 - 3. その他
- (報告事項)
- 1. 各委員会報告
 - 2. その他
 - ・友好団体連絡協議会の開催について
 - ・協会活動及び理事会のスケジュールについて
-
- 10.25(月) 岐阜県道路防災検討会
15:30 (場所：OKB ふれあい会館)
- 1. 開会挨拶 県土整備部 道路維持課長 様
道路防災対策検討会 会長
八嶋 厚 様
 - 2. 議事
雨量規制解除の検討
(1) (主) 金山明名線(郡上市明宝小川～同市明宝畑佐)
(2) (主) 可児金山線(七宗町麻生)
(会長代理で力石事務局長出席)
-
- 10.27(水) 第3回「災害時における中部地区県測協の応援協力に関する協定」についての意見交換会(WEB会議)
14:00～
- 参加者：村橋災害対策委員長、森災害対策副委員長 他

- 1. 協定に対する各側今日の方針
 - 2. 協定の内容について
 - 3. その他 意見交換
-
- 10.28(木) BCP策定セミナー及びBC演習(WEB会議)
13:30～
- 内容：講義「近年の気象災害と注意すべき情報」
演習「豪雨災害対応の演習」
方法：ZOOMによるWEB聴講
参加者：46名参加
-
- 10.29(金) 第50回社会基盤ME養成ユニット運営協議会及び幹事会
14:00～
- (場所：岐阜大学、WEB併用)
辻副会長、林建コン委員長出席
・令和3年度前期ME認定試験2の合否報告について
・令和4年度ME養成講座について
・その他



-
- 11.2(火) 自由民主党友好団体連絡協議会
10:00～
- 令和4年度県当初予算に対する要望
市橋副会長、辻副会長出席
-
- 11.4(木) 県幹部との意見交換会
13:30～ (場所：ハートフルスクエア-G大研修室)
- テーマ
- ・建設関連事業費の長期安定的な確保について
 - ・アフターコロナを見据えた新しい働き方の推進について
 - ・適正な業務価格設定について
 - ・災害対応に向けた環境整備について
- フリートーク
- ・総合評価落札方式【地域型(人材育成型)】について
 - ・新技術の普及・展開について
 - ・建設関連業務の表彰制度について
-
- 11.17(水) 第3回法令遵守委員会(書面表決)
1. 受注実態調査結果(4～9月)について
2. 法令遵守セミナーについて
-
- 11.19(金) 次世代経営者WG(WEB会議)
・今後の展開について
フリートーク
-
- 11.22(月) 第6回総務広報委員会(書面表決)
1. 県幹部との意見交換会の結果について
2. 全員協議会について
-
- 11.25(木) 第5回 正副会長会議
12:00～ (場所：岐測協事務所)
- 1. 理事会提案事項の事前審議について
 - 2. その他
-
- 13:30～ 第8回 理事会
(場所：岐阜県福祉・農業会館研修室)
(審議事項)
- 1. 県幹部との意見交換会の結果の取り纏めについて

2. 全員協議会について
 3. 受注実態調査（4月～9月）の結果について
 4. 災害時における中部地区各県測協の応援協力に関する協定について
 5. 定款23条第4項に基づく執行状況報告について
 6. その他
 - ・協会事務所の備品購入について
- （報告事項）
1. 各委員会報告
 2. その他
 - ・公益財団法人全国防災協会の表彰について
 - ・協会活動及び理事会のスケジュールについて

11.30(火) 第7回 理事会

- 12:00～
- （場所：ホテルグランパール岐山）
- （審議事項）
1. 全員協議会の運営について
 2. 令和4年度事業計画及び所要予算額の提出依頼について
 3. その他
- （報告事項）
1. 各委員会報告
 2. その他
 - ・協会活動及び理事会のスケジュールについて

13:30～ 全員協議会

- （場所：ホテルグランパール岐山）
- 講演
1. 「県公共事業における最近の話題について」
県土整備部 土木技監 野崎 真司 様
 2. 「心理的安定性の高いチームの作り方」
～働きやすく生産性の高いチームに求められるリーダーシップ～
組織活性化コンサルタント and my…
代表 前川由希子 様
- フォトコン表彰式
- 会議
1. 県幹部との意見交換会の結果報告
 2. 各委員会活動報告
 - ①総務広報委員会、②法令遵守委員会、
 - ③災害対策委員会、④測量技術委員会、
 - ⑤建コン技術委員会
 3. その他
 - 参加者 講演会49名（WEB聴講30名）
 - フォトコン 受賞者 8名
 - 会議 41名参加



12.2 (木) 「測量の日」中部地区協議会幹事会

- 14:00～
- （場所：愛測協事務所）
1. 令和3年度行事報告について
 2. 令和3年度収支決算について
 3. 令和4年度事業計画について
 4. 令和4年度収支予算について
 5. その他
 - 吉田総務広報委員長、力石事務局長参加

12.7 (火) 実務者意見交換会打合せ

- 13:30～
- （場所：県庁技術検査課、農地整備課）
県土整備部技術検査課 安田技術課長補佐
農政部農地整備課 千葉技術主査

12.11(土) 学力向上総合推進事業「第21回高校生ものづくりコンテスト（岐阜県大会）」

- 9:00～
- （岐阜県国際たくみアカデミー）
（講師派遣）尾藤測量技術副委員長、長野委員
測量部門の審査及び指導

12.13(月) 全測連中部地区協議会 会長会議

- 10:30～
- （場所：中部地方整備局）

11:00～ 全測連中部地区協議会 中部地方整備局への要望会

- （場所：中部地方整備局）
1. 地域の担い手確保のための協会員の優先的な活用について
 2. 働き方改革等にかかる事業・業務の平準化について
 3. 低入札価格調査制度の調査基準価格の引上げについて
 4. 三次元測量・設計業務（BIM/CIM）の見とおしについて
 5. 用地測量の数量について
- 出席者：浅野会長

12.13(月) 第5回 測量技術委員会

- 13:30～
- （場所：岐阜県福祉・農業会館研修室）
1. 用地不備案件アンケート結果について
 2. 令和4年度事業計画・予算について
 3. 実務者意見交換会について
 4. 若手測量技術者アンケートについて
 5. その他

12.14(火) 空間情報コミュニティぎふ監査

- 16:00～
- （場所：ユニオン本社）

12.15(水) 第4回 建コン技術委員会

- 13:30～
- （場所：OKB ふれあい会館404会議室）
1. 令和4年度事業計画・予算について
 2. 技術講習会について
 3. 実務者意見交換会について
 4. その他

12.17(金) 第3回 災害対策委員会

- 15:30～
- （場所：岐阜県福祉・農業会館5南会議室）
1. 令和4年度事業計画・予算について
 2. 「災害時における中部地区県測協の応援協力に関する協定」について
 3. その他

12.18(土) 新丸山ダム本体建設工事起工式

- 11:00～
- （場所：B & G 八百津海洋センター）
出席者：浅野会長

12:21(火) 令和3年度 空間情報コミュニティぎふ通常総会及び講演会（WEB会議）

- 17:00～
- （議事）
1. 令和2年度事業報告について
 2. 令和2年度決算報告について
 3. 令和3年度事業計画（案）について

4. 令和3年度収支予算(案)について
5. 空間情報コミュニティぎふ運営規則の改正(案)について

(講演)

1. DEMオープンデータプラットフォームについて
講師: 大日コンサルタント(株) 矢島賢治氏
2. ぎふ森林情報 WebMap について
講師 県森林研究所 古川邦明氏



- 1.11 (火) 令和4年度 地図教室と測量体験学習の開催案内
13:30~ (場所: 岐阜県教育委員会 学校支援課)
1. 令和4年度地図教室と測量体験学習の開催計画について
 2. 岐阜県社会科研究会総会時での周知依頼について
 3. その他

- 1.13 (木) 全測連設立60周年記念式典・講演会
14:00~ (場所: 東京都 学士会館)
- 講演 「国土交通行政に関する最近の話題」
国土交通省 事務次官 山田邦博氏
設立60周年記念式典

- 1.19 (水) 第51回 ME 養成ユニット運営協議会及び幹事会
10:00~ (場所: 岐阜大学工学部 A 棟)
- 辻副会長、林理事出席
1. 前回の議事録の確認
 2. 令和4年度 ME 養成講座について
 3. その他

- 1.21 (金) 令和3年度 法令遵守セミナー (オンライン)
13:30~ 収録: グランヴェール岐山
- 講演 1
- ・ぎふの「新しい働き方」
ぎふ働き方改革推進支援センター
社会保険労務士 酒井真由様
 - ・コロナ禍における適切な労務管理について
岐阜労働基準監督署
第2方面主任監督官 東彰子様
 - ・働き方改革関連法について
岐阜労働局 雇用環境・均等室 働き方・休み方改善コンサルタント 牟田昂平様
- 講演 2
- ・花柳界で学んだ福を呼ぶコミュニケーション
随筆家、元新橋 NO.1 芸者 千代里様
- 参加者 63名

- 1.28 (金) 第1回技術講習会 (現場見学会)
13:30~ 場所: 山口中首工 (本巣市山口地内)
- 【中止】 協力: 岐阜農林事務所 他

- 1.31 (月) 第7回総務広報委員会
13:30~ (場所: 岐阜県福祉・農業会館研修室)
1. 令和3年度予算執行状況(12月末)について
 2. 令和4年度事業計画及び所要予算について
 3. 令和4年度予算編成方針について
 4. 令和4年度委員会構成について

5. 要望計画及び要望事項の提出について
6. 第49回定時社員総会について
7. 会報誌の進捗状況と今後のスケジュールについて
8. 会報誌の配布計画について
9. 協会 LP について
10. 親睦ソフトボール大会の検討について
11. 次世代経営者 WG について
12. 地図教室と測量体験学習について
13. 岐測協ホームページの問題発生への対応について
14. その他

- 1.31 (月) 地理空間情報中部地区産学官連携協議会 (WEB)
14:00~
1. 三次元点群データに係る国土地理院の取組
国土地理院 地図情報技術開発室
 2. 三次元地図と自動運転 (株)マップフォー
 3. 国土地理院の最近の取組 国土地理院 中部地方測量部
 4. 意見交換
沖下測量技術委員長参加



- 2.1 (火) 測量技術・建コン技術委員会部会
13:30~ (場所: 岐測協事務所)
- ・実務者意見交換会のテーマについて

- 2.4 (金) 第6回 正副会長会議
12:00~ (場所: 岐測協事務所)
1. 理事会提案事項の事前審議について
 2. その他

- 13:30~ 第10回 理事会
(場所: 岐阜県福祉・農業会館研修室)
- (審議事項)
1. 令和3年度予算執行状況(12月末)について
 2. 令和4年度事業計画及び所要予算額について
 3. 令和4年度予算編成方針について
 4. 第49回定時社員総会について
 5. 役員の定数について
 6. 令和4年度委員会構成について
 7. 令和4年度発注機関への要望について
 8. 令和4年度親睦ソフトボール大会について
 9. その他
- ・協会 PR バンフレット (LP) の作成について
・岐測協ホームページの問題発生について
- (報告事項)
1. 各委員会報告
 2. その他
- ・協会活動及び理事会のスケジュールについて

- 15:00~ 第10回岐阜県測量設計政治連盟総会
(場所: 岐阜県福祉・農業会館研修室)
1. 令和3年度事業報告並びに収支決算について
 2. 令和4年度活動方針(案)並びに予算(案)について
 3. 会費の徴収方法(案)について
 4. 役員選任(案)について

一般社団法人 岐阜県測量設計業協会

倫理要綱

本会の会員は、測量設計業のもつ使命と職責の重大性に鑑み、信義にもとづいて職務の遂行にあたり、職業上の地位の向上並びに社会的評価の向上に努めなければならない。そのため、次の事項を遵守するものとする。

1. 品位の向上

会員は、岐阜県測量設計業協会並びに会員の社会的地位向上のためにその名誉を重んじなければならない。

2. 技術の権威の保持

会員は、常に技術の向上に努め、依頼者に対し技術的信念のもとに業務の遂行にあたらなければならない。

3. 公正の維持

会員は、測量設計業業務の公共性に鑑み、常々厳正中立の立場に立って業務を行い、公正を欠くことのないよう特段の注意を払わなければならない。

4. 秘密の保持

会員は、依頼者より受けた業務について知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

5. 相互協力

会員は、業務の遂行にあたり、依頼者の利益に役立つときは、会員相互間の技術連携あるいは他の専門家の協力を求めるように務めなければならない。

6. 法令等の遵守、名誉保持の業務

会員は、法令、当協会の定款、規則、規程その他の定めを遵守し、直接間接を問わず、自己又は会員及び本会の名誉又は信用を傷つけるような行為をしてはならない。

(一社)岐阜県測量設計業協会
のホームページに会報誌を掲載
しております。

(一社)岐阜県測量設計業協会のホームページ
<https://www.gisokkyou.com/>

岐阜県測量設計業協会

検索



編集後記



令和元年に初めて日本で新型コロナウイルス感染者が発見され、コロナパンデミックが終息しないまま約2年が経ち、令和の時代も4年目に入りました。

令和3年になり、ようやく日本でも新型コロナウイルスワクチンの普及が始まりました。ワクチンの接種が進み、2020年から延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。日本もメダル総数58個と躍進しました。ワクチンの普及が進んでいるものの、現在でもコロナ禍は続いています。

そんな中、令和3年8月、統計開始以来の極値を更新する記録的な豪雨により各地で災害が発生しました。岐阜県内でも「緊急安全確保」が発令され、東濃、飛騨地方で数多くの災害が発生し、河川の氾濫、土砂崩れ、道路の崩壊などが多発するほどの大規模な被害を受けました。

協会では、災害によって崩壊した箇所を元の状態にいち早く修復するため、協会員の総力を挙げて災害復旧に尽力しました。

また、業界としても新型コロナウイルス感染対策としてWebを活用した打合せ、講習会、会議等を積極的に実施し、テレワークや時差出勤等の活用を引き続き行っており、協会の活動も延期、自粛を余儀なくされ業界の魅力を発信する場がコロナ前に比べ確実に減少しております。今後はこのコロナ禍に適応した方法で魅力をアピールし、業界を活気づけていきたいと思っております。

1日でも早く新型コロナウイルス感染症が終息したと言えることを心から願っています。

最後に、本誌発刊に当たり、ご協力いただきました皆様、広告記載に協賛いただきました関係企業の皆様に心より御礼申し上げます。

一般社団法人 岐阜県測量設計業協会 総務広報委員会

岐測協 会報 2022.No.83 春号

発行日：令和4年3月25日発行

編集・発行：一般社団法人岐阜県測量設計業協会 〒500-8385 岐阜市下奈良2-2-1 岐阜県福祉・農業会館2階
TEL.058-274-4795 FAX.058-276-1224

<https://www.gisokkyou.com/>

gsk@quartz.ocn.ne.jp

印刷：西濃印刷株式会社